

平成22年

福島県感染症発生動向調査事業報告書

(平成22年1月～12月)

平成23年3月

福島県感染症情報センター
(福島県衛生研究所)
福島県感染症情報解析委員会

はじめに

感染症発生動向調査は、平成 11 年 4 月の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の施行に基づき、各都道府県の「感染症発生動向調査事業実施要綱」によって実施されています。

福島県においても「福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱」により、平成 13 年 7 月から地方感染症情報センターを福島県衛生研究所内に移管・設置して、県内の患者情報及び病原体情報を一元的に収集し、その解析と提供を行ってきました。

情報センターが収集・解析した情報は、週報・月報として定点医療機関や医師会等の関係機関に還元し、さらに、衛生研究所のホームページへ掲載することで、県民の皆様に広く情報提供を行っております。

平成 22 年は、全国では手足口病の流行が見られるとともに、A 型肝炎とデング熱の届出報告数が急増しました。福島県では、つつが虫病が平成 21 年に引き続き平成 22 年も全国で届出報告数が一番多くなりました。インフルエンザは、新型インフルエンザ A (H1N1) の終息後、大きな流行もなく推移しています。

このたび、平成 22 年の事業報告書を発行することになりました。発行に際し、定点医療機関をはじめ関係機関のご協力を深く感謝申し上げます。また、本報告書を広くご活用いただき、県民の感染症予防に役立てていただければ幸いです。

平成 23 年 3 月

福島県衛生研究所長 西田茂樹

目 次

I	福島県感染症発生動向調査事業実施概要	
(1)	福島県感染症発生動向調査事業実施概要	5
(2)	福島県感染症情報センターの概念図	6
II	福島県感染症発生動向調査事業一～五類，新型インフルエンザ等感染症全数把握及び五類感染症定点把握，法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症報告	
(1)	一～五類，新型インフルエンザ等感染症【全数把握】対象結果報告	8
(2)	一～五類，新型インフルエンザ等感染症【全数把握】報告調査結果（福島県・全国）	13
(3)	五類感染症【定点把握】対象結果報告	15
(4)	法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症結果報告	41
III	検査情報	
(1)	2010年感染症発生動向調査事業報告（ウイルス）	45
(2)	2010年感染症発生動向調査事業報告（細菌）	51
(3)	2010/11シーズンのインフルエンザの流行状況について	57

I 福島県感染症発生動向調査事業実施概要

(1) 福島県感染症発生動向調査事業の実施概要

1 実施体制

(1) 福島県感染症発生動向調査事業実施要綱等

本事業の実施に関わる要綱等は、本誌IV 資料に掲げるとおりである。

(2) 指定届出医療機関（定点選定）

福島県感染症発生動向調査事業実施要綱に基づき、指定届出医療機関【患者定点；①小児科：48 定点〔対象感染症のうち、福島県感染症発生動向調査事業実施要綱別表2（75）から（85）までに掲げるものについては、小児科を標榜する医療機関を小児科定点として指定する.〕、②インフルエンザ：80 定点〔対象感染症のうち、福島県感染症発生動向調査事業実施要綱別表2（86）については、前記で選定した小児科定点に加え、内科を標榜する医療機関を内科定点として指定し、両者を合わせてインフルエンザ定点とする.〕、③眼科：12 定点〔対象感染症のうち、福島県感染症発生動向調査事業実施要綱別表2（87）及び（88）については、眼科を標榜する医療機関を眼科定点とする.〕、④STD：16 定点〔対象感染症のうち、福島県感染症発生動向調査事業実施要綱別表2（89）から（92）については、産婦人科又は産科若しくは婦人科、性病科又は泌尿器科を標榜する医療機関を性感染症定点とする.〕、⑤基幹：7 定点〔対象感染症のうち、福島県感染症発生動向調査事業実施要綱別表2（93）から（99）については、患者を300人以上収容する病院（小児科医療と内科医療を提供しているもの）を各2次医療圏域毎に一カ所以上、基幹定点とする.〕、⑥疑似症：124 定点〔対象感染症のうち、福島県感染症発生動向調査事業実施要綱別表2（102）については、内科又は小児科を標榜する医療機関、（103）については、内科、小児科又は皮膚科を標榜する医療機関を疑似症定点とする.〕、及び病原体定点：21 医療機関〔各選定された患者定点の概ね10%を病原体定点とする.〕】を選定する。

(3) 福島県感染症発生動向調査企画委員会

本事業の実施の推進を図るため、福島県感染症発生動向調査企画委員会を、福島県感染症発生動向調査事業実施要綱により設置する。

(4) 福島県感染症情報解析委員会

収集した患者情報及び病原体情報を、より専門的な観点から解析、提供を行うため、福島県感染症発生動向調査企画委員会のもとに福島県感染症情報解析委員会を設置する。

2 実施状況

(1) 情報収集

ア 福島県感染症発生動向調査事業実施要綱により、患者定点として選定された医療機関は、調査単位が週（月曜日から日曜日まで）の場合は対象週の翌週の月曜日までに、月単位の場合は対象月の翌月の初日までに、FAX等で保健所に送信する。

保健所は、患者定点から得られた患者情報を、調査単位が週の場合は調査対象週の翌週の火曜日までに、調査対象が月の場合は調査対象月の翌月の3日までに、福島県感染症情報センターへコンピュータ・オンラインシステムにより伝送する。

イ 福島県病原体検査実施要領により、各病原体定点から採取された検体は、福島県衛生研究所で検査を行い、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、検査情報として福島県感染症情報センター及び医療看護課に報告する。

(2) 情報還元

福島県感染症情報センターは、患者情報及び病原体情報を週単位および月単位で収集、解析するとともに、その結果を全国情報と併せて、週報及び月報等として保健所に提供するとともに福島県医師会、福島県教育委員会、その他関係機関等に提供・公開する。

Ⅱ 福島県感染症発生動向調査事業一～五類，
新型インフルエンザ等感染症全数把握及び
五類感染症定点把握，
法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症
報告

(1) 一～五類，新型インフルエンザ等感染症全数把握対象結果報告

●一類感染症〔全数把握〕

(1) エボラ出血熱，(2) クリミア・コンゴ出血熱，(3) 痘そう，(4) 南米出血熱，(5) ペスト，(6) マールブルグ病，(7) ラッサ熱の報告はなかった。

●二類感染症〔全数把握〕

(8) 急性灰白髄炎の報告はなかった。

(9) 結核の報告は294例あった。

・結核報告状況

〔保健所別報告数〕

	県北	郡山市	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき市	計
22年	73	57	7	12	61	0	24	60	294
21年	87	66	4	14	39	1	25	49	285
20年	151	41	25	18	41	3	28	42	349

(10) ジフテリア，(11) 重症急性呼吸器症候群（病原体がSARSコロナウイルスであるものに限る），(12) 鳥インフルエンザ（H5N1）の報告はなかった。

●三類感染症〔全数把握〕

(13) コレラの報告はなかった。

(14) 細菌性赤痢の報告は5例あり，県北から1名〔38週（10歳代：感染原因不明）〕，郡山市から1例〔29週（50歳代：経口感染）〕，会津から2例〔4週（学童：経口感染），24週（60歳代：感染原因不明）〕，相双から1名〔39週（50歳代：経口感染）〕の報告があった。

・細菌性赤痢年別報告状況

	報告例	推定される感染原因・経路
22年	5例	経口感染：海産物の生もの（1例），海外での飲食（2例），不明（2例）
21年	2例	不明（2例）
20年	3例	経口感染：海産物の生もの（1例），不明（2例）

(15) 腸管出血性大腸菌感染症の報告は35例あった。

・腸管出血性大腸菌感染症年別報告状況

[保健所別報告数]

	県北	郡山市	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき市	計
22年	12	8	6	0	3	0	2	4	35
21年	5	14	0	3	6	0	6	1	35
20年	17	16	4	0	0	0	14	1	52

[月別報告数]

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
22年	0	1	0	0	0	3	4	3	13	10	1	0	35
21年	0	0	0	2	0	1	6	12	3	7	3	1	35
20年	0	0	0	1	0	1	11	16	8	8	3	4	52

[型別報告数]

型	22年	21年	20年
O 26	10	15	20
O 103	2	6	0
O 111	0	0	3
O 121	1	1	1
O 157	14	10	28
不明他	8	3	0
計	35	35	52

(16) 腸チフス, (17) パラチフスの報告はなかった。

●四類感染症 [全数把握]

(18) E型肝炎, (19) ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む) の報告はなかった。

(20) A型肝炎の報告は2例あり, 県北から2例 [28週 (30歳代, 推定感染地域: 伊達市), 38週 (20歳代, 推定感染地域: スーダン)] の報告があった。

(21) エキノコックス症, (22) 黄熱, (23) オウム病, (24) オムスク出血熱, (25) 回帰熱,

(26) キヤサヌル森林病, (27) Q熱, (28) 狂犬病, (29) コクシジオイデス症,

(30) サル痘, (31) 腎症候性出血熱, (32) 西部ウマ脳炎, (33) ダニ媒介脳炎, (34) 炭疽の報告はなかった。

(35) つつが虫病の報告は60例あり, 前期 (1~6月) に17例 [県北 (8例), 郡山市 (2例), 県中 (3例), 県南 (1例), 会津 (3例)], 後期 (7~12月) に43例 [県北 (1例),

郡山市（6例）、県中（6例）、県南（29例）、会津（1例）]の報告があった。

・つつが虫病年別報告状況

[保健所別報告数]

	県北	郡山市	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき市	計
22年	9	8	9	30	4	0	0	0	60
21年	5	22	29	35	0	0	3	2	96
20年	10	16	18	18	3	1	1	0	67

[月別報告数]

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
22年	0	0	0	1	9	6	1	0	0	5	19	19	60
21年	0	0	0	3	4	4	0	0	0	14	41	30	96
20年	0	1	0	6	10	5	0	0	0	8	22	15	67

(36) デング熱の報告は2例あり、県北から1例〔32週（20歳代、推定感染地域：インドネシア）〕、会津から1例〔25週（30歳代、推定感染地域：インドネシアバリ島）〕の報告があった。

(37) 東部ウマ脳炎、(38) 鳥インフルエンザ（H5N1を除く）、(39) ニパウイルス感染症、(40) 日本紅斑熱、(41) 日本脳炎、(42) ハンタウイルス肺症候群、(43) Bウイルス病、(44) 鼻疽、(45) ブルセラ症、(46) ベネズエラウマ脳炎、(47) ヘンドラウイルス感染症、(48) 発しんチフス、(49) ボツリヌス症、(50) マラリア、(51) 野兔病、(52) ライム病、(53) リッサウイルス感染症、(54) リフトバレー熱、(55) 類鼻疽の報告はなかった。

(56) レジオネラ症の報告は13例あり、県北から4例〔4週（40歳代）、33週（70歳代）、42週（80歳代）、46週（90歳代）〕、郡山市から6例〔10週（60歳代）、23週（50歳代）、29週（50歳代）、30週（50歳代）、37週（50歳代）、38週（50歳代）〕、県中から1例〔11週（50歳代）〕、会津から2例〔37週（70歳代）、47週（70歳代）〕の報告があった。

・レジオネラ症年別報告状況

	報告例	推定される感染原因・経路
22年	13例	水系感染（7例）、不明（6例）
21年	10例	水系感染（3例）、不明（7例）
20年	7例	水系感染（7例）

(57) レプトスピラ症、(58) ロッキー山紅斑熱の報告はなかった。

●五類感染症〔全数把握〕

(59) アメーバ赤痢の報告は13例あり、県北から6例〔14週（60歳代）、29週（40歳代）、31週（50歳代）、40週（30歳代）、42週（60歳代）、48週（40歳代）〕、郡山市から1例

[26週(50歳代)], 県南から1例[44週(50歳代)], 会津から3例[2週(50歳代), 14週(50歳代), 46週(40歳代)], 相双から2例[3週(50歳代), 47週(30歳代)]の報告があった。

・アメーバ赤痢年別報告状況

	報告例	推定される感染原因・経路
22年	13例	性行為感染(2例), 経口感染(3例), 不明(8例)
21年	14例	性行為感染(5例), 経口感染(1例), 不明(8例)
20年	12例	性行為感染(3例), 経口感染(3例), 不明(6例)

(60) ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)の報告はなかった。

(61) 急性脳炎(ウエストナイル脳炎, 西部ウマ脳炎, ダニ媒介脳炎, 東部ウマ脳炎, 日本脳炎, ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く)の報告は2例あり, 県北から2例[1週(学童), 52週(幼児)]の報告があった。

・急性脳炎年別報告状況

	報告例	推定される感染原因・経路
22年	2例	新型インフルエンザ(1例), ムンプスウイルス(1例)
21年	12例	インフルエンザ(6例), 新型インフルエンザ(5例), リステリア・モノサイトゲネス(1例)
20年	3例	インフルエンザ(3例)

(62) クリプトスポリジウム症の報告はなかった。

(63) クロイツフェルト・ヤコブ病の報告は8例あり, 県北から2例[40週(70歳代)46週(70歳代)], 郡山市から3例[8週(80歳代), 39週(80歳代), 52週(60歳代)], いわき市から3例[9週(50歳代), 22週(60歳代), 31週(70歳代)]の報告があった。

(64) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症の報告はなかった。

(65) 後天性免疫不全症候群の報告は6例あり, 県北から2例[2週(30歳代:女性, 無症候期), 15週(30歳代:男性, 無症候期)], 郡山市から2例[16週(40歳代:男性, 無症候期), 18週(20歳代:男性, 無症候期)], 県南から1例[13週(30歳代:男性, 無症候期)], 会津から1例[16週(50歳代:男性, AIDS)]の報告があった。

・後天性免疫不全症候群年別報告状況

	報告例	推定される感染原因・経路
22年	6例	性的接触(異性間性的接触2例, 同性間性的接触1例, 異性間か同性間か不明2例), 不明(1例)
21年	5例	性的接触(異性間性的接触4例, 同性間性的接触1例,)
20年	6例	性的接触(異性間性的接触2例, 異性間・同性間性的接触3例), 不明(1例)

(66) ジアルジア症の報告は1例あり、25週にいわき市（70歳代：推定感染地域：福島県）から報告があった。

(67) 髄膜炎菌性髄膜炎、(68) 先天性風しん症候群の報告はなかった。

(69) 梅毒の報告は6例あり、県北から1例〔11週（60歳代：晩期顕症梅毒）〕、郡山市から1例〔29週（70歳代：早期顕症梅毒）〕、県中から2例〔10週（30歳代：早期顕症梅毒）、36週（50歳代：無症候梅毒）〕、相双から2例〔19週（20歳代：早期顕症梅毒）、48週（30歳代：早期顕症梅毒）〕の報告があった。

・梅毒年別報告状況

	報告例	推定される感染原因・経路
22年	6例	性的接触（4例）、不明（2例）
21年	6例	性的接触（5例）、不明（1例）
20年	4例	性的接触（3例）、不明（1例）

(70) 破傷風の報告は1例あり、42週に相双（70歳代）から報告があった。

(71) バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症の報告はなかった。

(72) バンコマイシン耐性腸球菌感染症の報告は1例あり、37週に県北（70歳代）から報告があった。

(73) 風しんの報告は1例あり、33週にいわき市（10歳代）から報告があった。

(74) 麻しんの報告は3例あり、県北から2例〔38週（幼児）、42週（乳児）〕、郡山市から1例〔4週（20歳代）〕の報告があった。

・麻しん報告状況

	報告例	ワクチン接種歴
22年	3例	無し（3例）
21年	9例	有り（2例）、無し（4例）、不明（3例）

(2) 一～五類, 新型インフルエンザ等感染症全数把握報告調査結果

対 象 疾 患		全 国			福 島 県		
		平成22年*	平成21年	平成20年	平成22年	平成21年	平成20年
一類	エボラ出血熱						
	クリミア・コンゴ出血熱						
	痘そう						
	南米出血熱 (※1)						
	ベスト						
	マールブルグ病						
	ラッサ熱						
二類	急性灰白髄炎	2		2			
	結核 (※1)	25,695	26,253	28,419	294	285	349
	ジフテリア						
	重症急性呼吸器症候群 (※2)						
	鳥インフルエンザ(H5N1) (※3)						
三類	コレラ	11	16	45			
	細菌性赤痢	232	179	320	5	2	3
	腸管出血性大腸菌感染症	4,102	3,837	4,322	35	35	52
	腸チフス	31	29	57			
	パラチフス	21	26	27			
四類	E型肝炎	65	54	43		1	
	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)						
	A型肝炎	342	114	170	2	4	3
	エキノкокクス症	12	25	22			
	黄 熱						
	オウム病	11	21	9			1
	オムスク出血熱 (※1)						
	回帰熱	1					
	キャサスル森林病 (※1)						
	Q熱	2	2	3			
	狂犬病						
	コクシジオイデス症	1	2	2			
	サル痘						
	腎症候性出血熱						
	西部ウマ脳炎 (※1)						
	ダニ媒介脳炎 (※1)						
	炭疽						
	つつが虫病	385	455	442	60	96	67
	デング熱	241	92	104	2	1	3
	東部ウマ脳炎 (※1)						
	鳥インフルエンザ (※4) (※1)						
	ニパウイルス感染症						
	日本紅斑熱	130	125	132			
	日本脳炎	4	3	3			
	ハンタウイルス肺症候群						
	Bウイルス病						
	鼻疽 (※1)						
	ブルセラ症	2	2	4			
	ベネズエラウマ脳炎 (※1)						
	ヘンドラウイルス感染症 (※1)						
	発しんチフス						
	ボツリヌス症			2			
	マラリア	74	56	56		1	1
野兎病			5			1	
ライム病	12	7	5				
リッサウイルス感染症							
リフトバレー熱 (※1)							
類鼻疽 (※1)	4						
レジオネラ症	718	689	893	13	10	7	
レプトスピラ症	22	15	42				
ロッキー山紅斑熱 (※1)							

五類	アメーバ赤痢	821	769	872	13	14	12
	ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く）	217	212	241			2
	急性脳炎（※5）	231	493	190	2	12	3
	クリプトスポリジウム症	16	17	10			1
	クロイツフェルト・ヤコブ病	164	140	152	8	4	1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	123	103	113		2	1
	後天性免疫不全症候群	1,502	1,417	1,568	6	5	6
	ジアルジア症	80	74	76	1		1
	髄膜炎菌性髄膜炎	7	10	10			
	先天性風しん症候群		1				
	梅毒	604	676	839	6	6	4
	破傷風	103	112	123	1	1	
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症						
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	119	117	80	1	1	1
	風しん（※6）	87	147	303	1	2	2
	麻疹（※6）	452	741	11,015	3	9	22
	新型インフルエンザ等	新型インフルエンザ（※7）		12,405			252
再興型インフルエンザ（※3）							

* 全国の平成21年，平成22年のデータは未確定です

(※1) 平成19年4月1日から調査開始

(※2) 病原体がSARSコロナウイルスであるものに限る

(※3) 平成20年5月12日から調査開始

(※4) 鳥インフルエンザ(H5N1)を除く

(※5) ウエストナイル脳炎，西部ウマ脳炎，ダニ媒介脳炎，東部ウマ脳炎，日本脳炎，ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く

(※6) 平成20年1月1日から全数把握疾患となる

(※7) 平成20年5月12日から調査開始，平成21年8月25日以降はインフルエンザA(H1N1)に限り届出不要となる

(3) 五類感染症定点把握対象結果報告

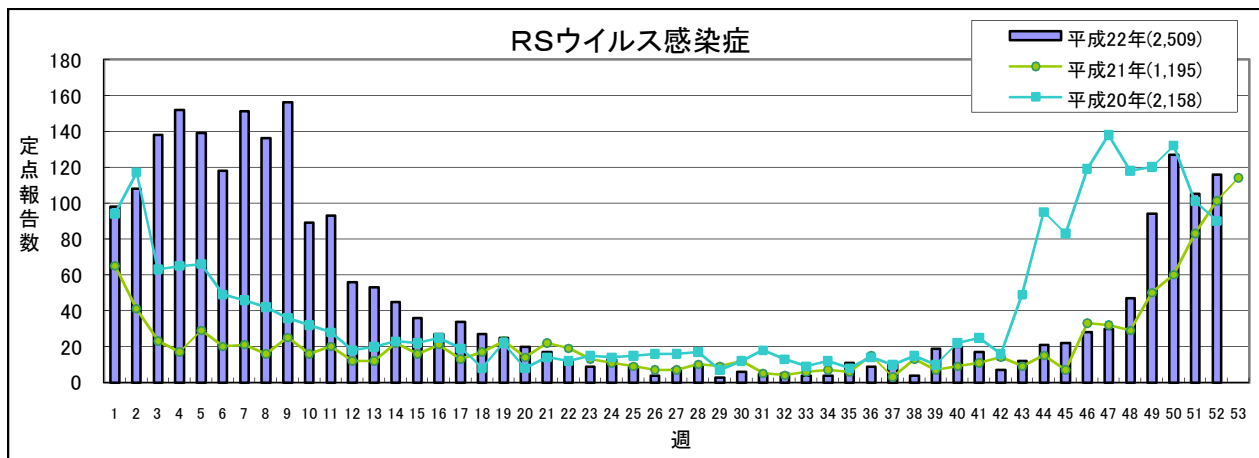
● 五類感染症対象疾患（定点把握）

(86)	インフルエンザ〔鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く〕 (80 インフルエンザ定点：32 内科定点, 48 小児科定点)		週報対象疾患	
(75)	RS ウイルス感染症	(48 小児科定点)		
(76)	咽頭結膜熱	(48 小児科定点)		
(77)	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	(48 小児科定点)		
(78)	感染性胃腸炎	(48 小児科定点)		
(79)	水痘	(48 小児科定点)		
(80)	手足口病	(48 小児科定点)		
(81)	伝染性紅斑	(48 小児科定点)		
(82)	突発性発しん	(48 小児科定点)		
(83)	百日咳	(48 小児科定点)		
(84)	ヘルパンギーナ	(48 小児科定点)		
(85)	流行性耳下腺炎	(48 小児科定点)		
(87)	急性出血性結膜炎	(12 眼科定点)		
(88)	流行性角結膜炎	(12 眼科定点)		
(93)	クラミジア肺炎〔オウム病を除く〕	(7 基幹定点)		
(94)	細菌性髄膜炎	(7 基幹定点)		
(96)	マイコプラズマ肺炎	(7 基幹定点)		
(97)	無菌性髄膜炎	(7 基幹定点)		
(89)	性器クラミジア感染症	(16 STD 定点)		月報対象疾患
(90)	性器ヘルペスウイルス感染症	(16 STD 定点)		
(91)	尖圭コンジローマ	(16 STD 定点)		
(92)	淋菌感染症	(16 STD 定点)		
(95)	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	(7 基幹定点)		
(98)	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	(7 基幹定点)		
(99)	薬剤耐性緑膿菌感染症	(7 基幹定点)		

● 五類感染症（定点把握）患者地域別定点機関数

	小児科定点	内科定点	眼科定点	基幹定点	STD 定点
県北	10	7	3	1	4
郡山市	7	5	2	1	2
県中	6	4	1	0	2
県南	4	3	1	1	1
会津	6	4	2	1	2
南会津	2	1	0	1	0
相双	5	3	1	1	2
いわき市	8	5	2	1	3
計	48	32	12	7	16

(75)RSウイルス感染症



RSウイルス感染症（48小児科定点）

定点からの年間報告数は2,509例あり、前年と比較し2倍以上増加した。前年末からの流行に引き続き、南会津を除く県内全域で4月頃まで流行が見られた。また、例年どおり11月頃から流行が始まり、最初は郡山市、その後県北、会津、相双でも流行が見られた。

年齢構成では、1歳までの報告が約7割(67.2%)を占めた。

少ない 多い

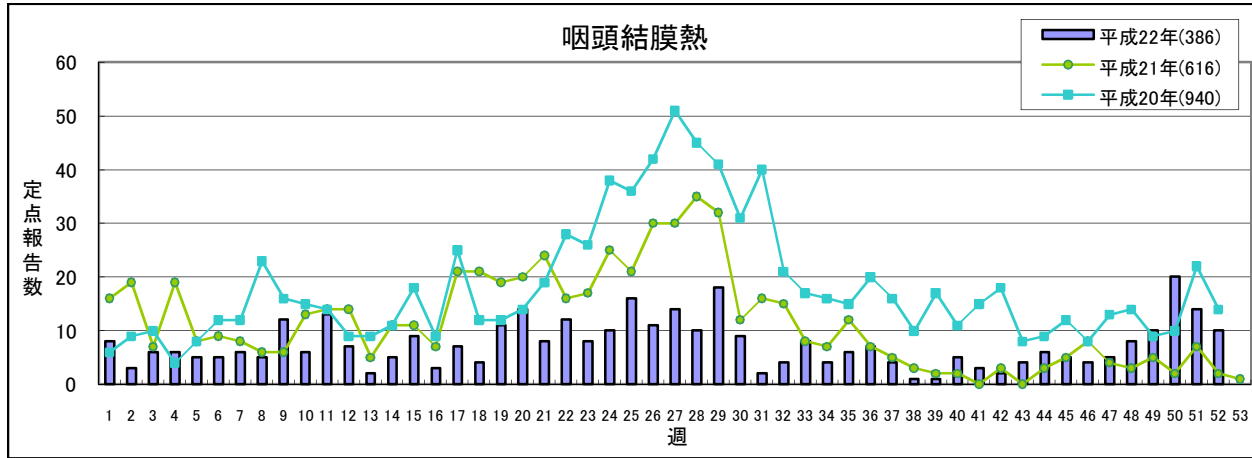
平成22年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	22	30	43	50	57	59	77	56	87	36	27	25	20	19	12	8	5	4	6	5	1	2	3	2	1	0	0
郡山市	35	47	42	39	32	26	21	17	21	9	21	10	16	15	13	10	18	14	15	9	12	6	3	7	7	4	8
県中	11	11	15	17	12	4	5	3	4	6	1	4	4	2	1	1	0	1	0	0	1	0	0	2	0	0	0
県南	11	6	21	10	17	7	8	8	3	8	7	2	4	1	3	3	3	3	3	3	1	2	2	2	0	0	0
会津	17	6	7	10	8	4	28	32	24	20	19	12	5	5	4	1	2	2	0	1	1	1	0	0	0	0	0
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
相双	2	7	0	3	5	5	3	7	7	3	12	2	3	1	2	4	5	3	0	0	0	1	1	0	1	0	0
いわき市	0	1	10	23	8	13	9	13	10	7	6	1	1	2	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
H22	98	108	138	152	139	118	151	136	156	89	93	56	53	45	36	27	34	27	25	20	17	12	9	13	9	4	8
H21	65	41	23	17	29	20	21	16	25	16	20	12	12	22	16	21	13	17	23	14	22	19	13	11	9	7	7
H20	94	117	63	65	66	49	46	42	36	32	28	18	20	23	22	25	19	8	22	8	14	12	15	14	15	16	16
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	0	0	4	1	1	0	1	3	4	2	7	24	22	20	16	-	767
郡山市	4	3	2	4	5	3	3	9	5	6	3	11	13	11	4	7	6	10	14	20	29	41	65	49	60	-	864
県中	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	1	0	0	0	0	3	3	1	0	2	4	5	2	-	130	
県南	2	0	3	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2	2	2	1	2	0	1	0	0	5	5	4	-	170
会津	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	1	1	0	4	9	16	9	21	-	277
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	2
相双	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	5	2	1	0	2	0	3	2	5	6	12	7	12	9	-	146
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	1	12	0	4	1	1	6	8	5	4	-	153
H22	10	3	6	5	5	4	4	11	9	10	4	19	20	17	7	12	21	22	28	30	47	94	127	105	116	-	2,509
H21	10	9	12	5	4	6	7	6	15	3	13	7	9	11	14	9	15	7	33	32	29	50	60	83	101	114	1,195
H20	17	7	12	18	13	9	12	8	14	10	15	10	22	25	16	49	95	83	119	138	118	120	132	101	90	-	2,158

年齢構成

	~5ヶ月	~11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	20歳~	合計
H22	420	451	816	348	215	115	74	24	17	7	8	10	3	1	2,509
H21	252	243	425	136	66	35	12	9	2	2	6	7	0	0	1,195

(76)咽頭結膜熱



咽頭結膜熱（48小児科定点）

定点からの年間報告数は386例あり、前年と比較し約4割減少した。南会津を除く県内全域で継続または断続した流行が見られた。例年のような5月～7月の流行は見られなかった。

年齢構成では、1～5歳の報告が7割以上（76.4%）を占めた。



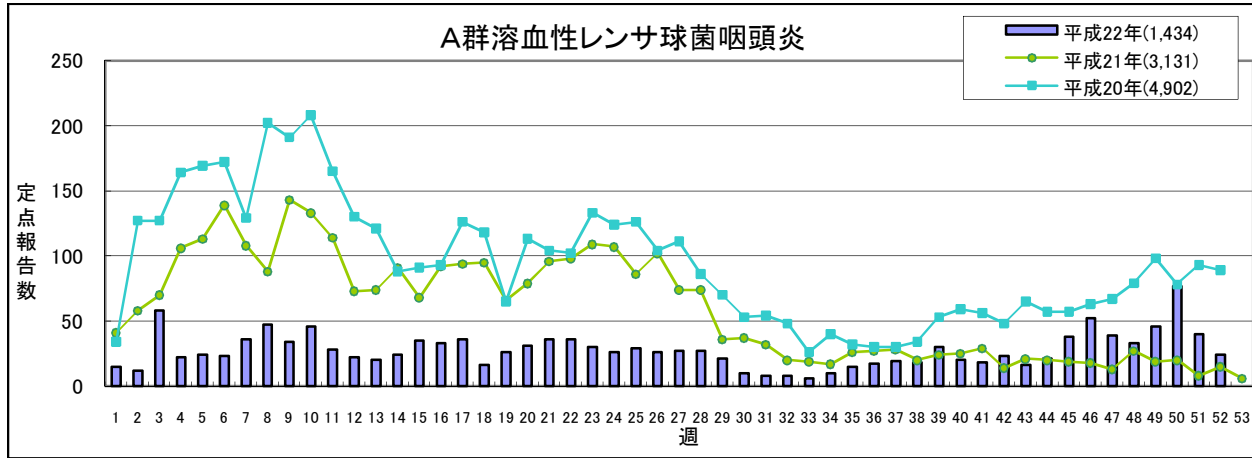
平成22年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	2	0	0	1	3	3	3	0	5	1	0	1	2	0	1	1	0	0	2	2	0	3	1	0	6	6	4
郡山市	0	1	0	0	1	1	2	3	3	1	2	0	2	2	1	2	2	3	4	7	3	6	2	4	3	1	3
県中	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	2	3	0	1	2	0	1	0	1	0	1	1	2	1	0	1	2
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	2
会津	0	1	1	0	0	0	0	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	1	1	0
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	1	1	2	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	2	3	0	1	0	0	2	2	0	1	3	4	0	3
いわき市	4	0	3	4	1	1	0	1	2	0	6	2	0	0	0	1	3	1	3	3	0	2	1	2	1	1	0
H22	8	3	6	6	5	5	6	5	12	6	13	7	2	5	9	3	7	4	11	14	8	12	8	10	16	11	14
H21	16	19	7	19	8	9	8	6	6	13	14	14	5	11	11	7	21	21	19	20	24	16	17	25	21	30	30
H20	6	9	10	4	8	12	12	23	16	15	14	9	9	11	18	9	25	12	12	14	19	28	26	38	36	42	51
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計
県北	2	6	4	0	1	3	2	4	1	3	0	0	3	1	0	3	1	1	1	1	0	4	14	2	2	-	106
郡山市	0	0	1	0	1	1	2	2	2	1	0	1	0	1	1	0	1	0	2	2	6	1	3	5	4	-	94
県中	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	-	26
県南	1	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	-	15
会津	1	6	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	-	23
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0
相双	4	2	2	1	1	1	0	0	2	0	0	0	2	1	1	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	-	49
いわき市	2	2	1	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	3	1	2	1	3	1	6	4	-	73
H22	10	18	9	2	4	8	4	6	7	4	1	1	5	3	2	4	6	5	4	5	8	10	20	14	10	-	386
H21	35	32	12	16	15	8	7	12	7	5	3	2	2	0	3	0	3	5	8	4	3	5	2	7	2	1	616
H20	45	41	31	40	21	17	16	15	20	16	10	17	11	15	18	8	9	12	8	13	14	9	10	22	14	-	940

年齢構成

	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H22	1	35	111	55	60	50	19	22	8	3	8	13	0	1	386
H21	5	46	149	77	91	84	58	30	19	19	13	18	0	7	616

(77)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（48小児科定点）

定点からの年間報告数は1,434例あり、前年の約半分に減少した。南会津を除く県内全域で継続または断続した流行が見られた。

年齢構成では、3～7歳の報告が6割以上(64.4%)を占めた。

少ない 多い

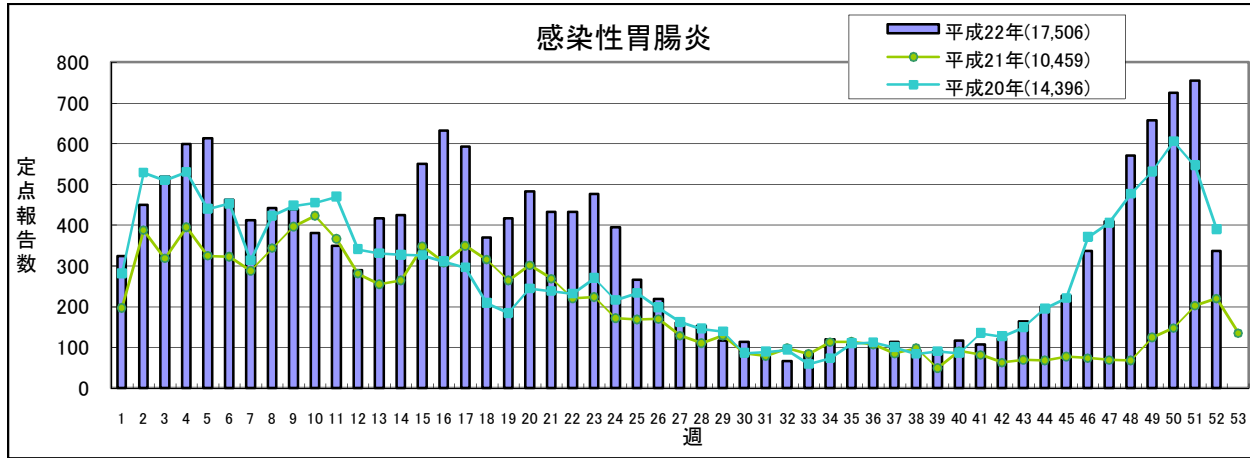
平成22年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	3	3	30	4	6	4	7	8	9	10	9	7	9	7	14	10	12	7	14	13	5	16	12	3	13	8	14
郡山市	3	0	2	3	3	4	3	8	5	7	2	6	3	0	3	4	3	2	4	5	9	4	3	3	2	4	0
県中	1	0	2	4	3	0	5	2	6	3	2	3	1	4	10	11	5	2	2	1	1	2	1	2	2	2	
県南	0	2	5	2	3	5	2	7	3	0	2	0	0	2	0	0	6	1	0	5	0	4	0	2	1	0	2
会津	1	0	2	0	1	2	4	8	4	3	3	2	3	4	2	1	5	0	0	2	11	6	4	4	5	4	6
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	6	5	13	3	4	4	9	2	2	16	3	0	0	0	0	6	1	0	1	1	2	1	2	2	1	1	0
いわき市	1	2	4	6	4	5	6	12	5	7	7	4	4	7	6	1	4	4	5	4	8	4	7	11	5	7	3
H22	15	12	58	22	24	23	36	47	34	46	28	22	20	24	35	33	36	16	26	31	36	36	30	26	29	26	27
H21	41	58	70	106	113	139	108	88	143	133	114	73	74	91	68	92	94	95	66	79	96	98	109	107	86	102	74
H20	34	127	127	164	169	172	129	202	191	208	165	130	121	88	91	93	126	118	65	113	104	102	133	124	126	104	111
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計
県北	10	6	4	0	5	3	2	2	6	6	12	16	12	9	12	9	9	18	15	8	7	14	41	13	7	-	503
郡山市	5	7	0	0	0	0	0	1	1	1	0	1	2	2	2	1	2	4	4	3	2	5	8	4	2	-	151
県中	1	2	1	3	0	1	0	4	1	4	3	4	2	2	4	0	3	1	9	4	2	4	3	1	2	-	139
県南	1	3	2	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	2	2	1	2	3	3	2	3	4	3	2	2	-	92
会津	4	0	0	0	1	0	3	0	0	2	2	2	2	2	0	3	1	7	9	13	7	9	9	7	1	-	171
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0
相双	0	1	0	1	0	0	0	1	2	1	0	3	1	0	0	0	0	0	3	0	0	1	0	4	3	-	106
いわき市	6	2	3	4	2	2	5	6	7	5	0	3	1	1	3	2	4	5	9	9	12	9	13	9	7	-	272
H22	27	21	10	8	8	6	10	15	17	19	18	30	20	18	23	16	21	38	52	39	33	46	77	40	24	-	1,434
H21	74	36	37	32	20	19	17	26	27	28	20	24	25	29	14	21	20	19	18	13	27	19	20	8	15	6	3,131
H20	86	70	53	54	48	26	40	32	30	30	34	53	59	56	48	65	57	57	63	67	79	98	78	93	89	-	4,902

年齢構成

	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H22	3	7	54	97	124	214	236	198	151	101	77	134	13	25	1,434
H21	3	13	82	180	280	432	481	422	311	268	201	336	22	100	3,131

(78) 感染性胃腸炎



感染性胃腸炎（48小児科定点）

定点からの年間報告数は17,506例あり、前年と比較し約7割増加した。年始から南会津を除く県内全域で流行し、第5週以降減少していたが、再び流行し第15週に2回目のピークを迎えた。また、例年同様、12月頃から流行が始まり、第51週に3回目のピークを迎えた。

年齢構成では、1歳の報告が最も多く、次いで2歳、3歳、4歳、5歳の順に報告が多かった。

少ない 多い

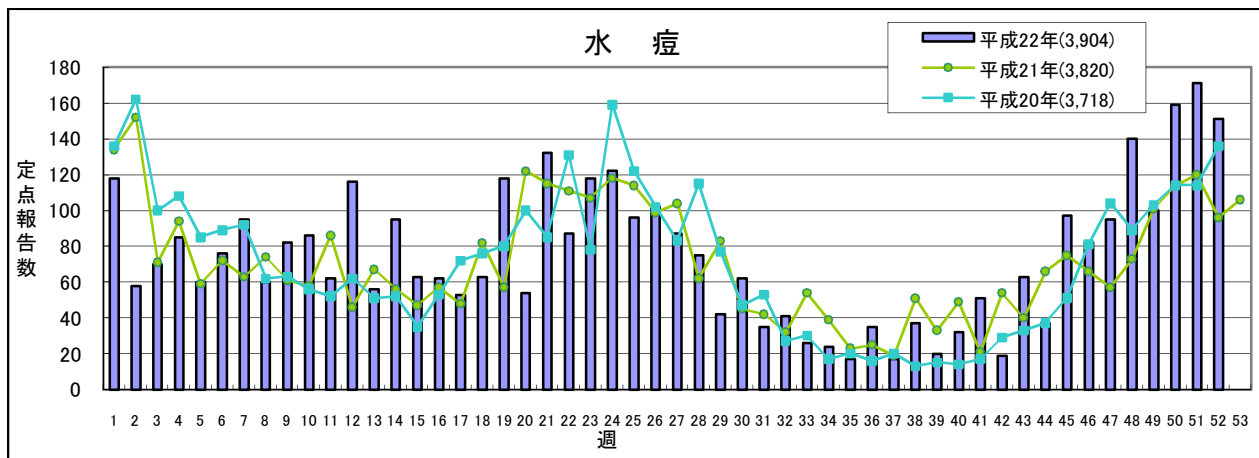
平成22年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w	
県北	78	88	110	115	115	65	66	56	62	56	52	35	67	57	85	111	115	91	106	90	80	73	77	71	44	43	15	
郡山市	27	40	46	41	54	39	47	50	45	56	57	48	63	40	60	70	97	75	52	81	83	100	89	53	47	31	41	
県中	65	79	90	100	91	70	63	88	73	57	46	47	62	63	79	78	54	45	66	57	37	49	55	59	61	39	14	
県南	17	23	53	55	48	32	28	26	44	46	60	21	24	25	33	27	32	27	17	42	32	35	50	35	22	24	11	
会津	25	50	52	106	122	85	88	79	110	65	64	66	73	98	148	185	158	62	69	86	52	42	58	63	28	24	36	
南会津	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
相双	35	80	77	88	113	84	67	61	39	27	24	35	40	71	71	70	60	38	53	57	57	36	52	34	21	23	24	
いわき市	75	90	91	94	70	87	53	82	65	74	46	37	87	71	74	91	76	32	54	70	91	98	95	80	42	35	20	
H22	324	450	519	599	613	462	412	442	438	381	349	289	416	425	550	632	592	370	417	483	432	433	476	395	265	219	161	
H21	197	388	319	395	325	323	288	344	397	424	367	281	255	265	348	309	350	316	265	302	269	221	224	172	169	170	129	
H20	281	529	510	531	440	453	314	423	448	455	470	341	331	327	326	311	296	209	184	244	238	232	270	216	233	198	162	
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計	
県北	32	27	13	14	9	15	22	19	22	15	19	11	19	18	20	23	43	30	57	92	141	141	157	170	70	-	3222	
郡山市	24	20	24	14	14	21	23	20	19	12	19	17	23	14	14	46	39	68	97	93	88	72	89	63	36	-	2501	
県中	26	26	21	11	16	22	14	29	22	24	13	20	14	17	13	12	19	29	26	38	80	118	127	99	32	-	2555	
県南	16	8	6	1	2	3	7	7	2	9	4	9	6	6	4	12	13	4	14	18	16	39	61	72	45	-	1273	
会津	17	7	19	10	9	10	20	9	11	13	8	8	16	18	26	29	27	37	67	76	67	101	84	45	35	-	2863	
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	2
相双	23	21	24	22	10	13	22	14	15	21	20	18	28	15	26	20	26	20	26	32	45	49	61	75	31	-	2114	
いわき市	15	7	6	5	6	2	11	9	15	19	10	8	11	19	18	22	32	39	49	59	133	137	146	231	87	-	2976	
H22	153	116	113	77	66	86	119	107	106	113	93	91	117	107	121	164	199	227	336	408	570	657	725	755	336	-	17,506	
H21	111	129	86	79	98	84	113	114	107	85	98	49	91	82	63	70	68	78	74	69	68	125	148	203	220	135	10,459	
H20	146	139	86	89	94	59	73	110	112	100	84	90	86	135	127	149	195	221	371	406	477	532	606	547	390	-	14,396	

年齢構成

	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H22	177	908	2359	1785	1692	1640	1568	1230	920	745	673	1757	334	1718	17,506
H21	89	660	1490	1109	957	947	813	678	525	441	359	1027	270	1094	10,459

(79)水痘



水痘（48小児科定点）

定点からの年間報告数は3,904例あり、5月から7月にかけては郡山市、県中を中心に、11月から12月にかけては県北、県南、いわき市を中心に流行が見られた。流行の季節推移は例年どおりの形となった。

年齢構成では、1～5歳の報告が多く、約8割(79.0%)を占めた。

少ない 多い

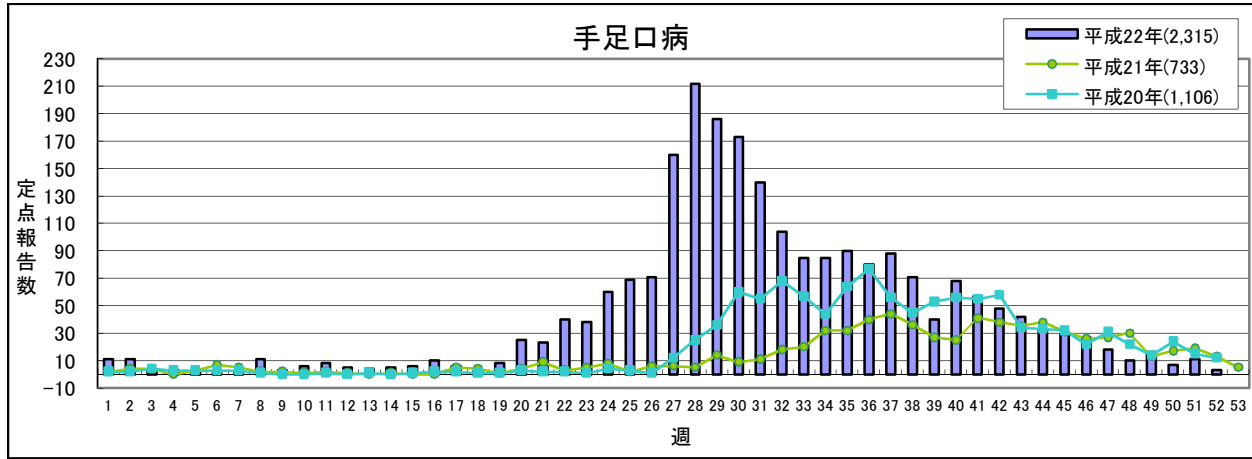
平成22年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	35	24	11	37	17	31	35	19	18	23	22	32	17	15	20	10	10	14	20	11	26	17	42	23	20	32	13
郡山市	13	10	7	13	6	11	9	9	12	13	8	12	9	14	6	10	7	14	34	8	25	14	30	24	28	15	37
県中	14	9	7	9	9	3	11	6	10	3	6	3	10	9	17	8	11	10	17	11	32	16	11	23	19	15	11
県南	4	3	2	2	6	2	13	6	7	3	3	3	2	5	7	8	6	6	12	7	12	12	9	9	8	5	7
会津	7	4	3	4	5	2	0	2	6	5	8	5	4	4	2	6	5	2	4	6	9	11	4	21	5	14	12
南会津	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	2	1	1	1	0	1	0	0	2	12	2	17	7	10	3	4	3	2	5	1	9	2	11	1	3	8	2
いわき市	43	7	38	19	17	26	27	17	27	27	13	44	7	38	8	16	11	15	26	10	19	15	11	21	13	13	5
H22	118	58	70	85	60	76	95	60	82	86	62	116	56	95	63	62	53	63	118	54	132	87	118	122	96	102	87
H21	134	152	71	94	59	72	63	74	61	58	86	46	67	56	47	57	48	82	57	122	115	111	107	118	114	99	104
H20	136	162	100	108	85	89	92	62	63	56	52	62	51	52	35	53	72	76	80	100	85	131	78	159	122	102	83
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計
県北	16	6	10	6	9	1	3	5	3	3	2	3	5	7	5	6	7	43	16	26	29	25	43	24	33	-	930
郡山市	26	10	22	15	11	8	9	8	9	4	9	7	7	10	2	18	6	12	0	18	8	7	12	23	23	-	682
県中	0	1	2	0	1	1	3	0	4	0	2	0	6	1	3	12	2	9	4	8	13	7	18	14	10	-	431
県南	10	11	6	5	6	2	3	0	3	0	0	1	2	9	2	4	6	6	28	2	37	6	34	17	13	-	382
会津	17	7	19	6	8	11	4	3	7	3	17	4	8	7	4	5	4	9	15	12	12	17	19	19	10	-	407
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	-	4
相双	1	2	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	1	5	1	1	3	3	0	6	5	5	3	3	8	-	160
いわき市	5	5	3	1	6	2	2	1	9	7	7	5	3	12	2	17	9	15	18	23	36	32	30	71	54	-	908
H22	75	42	62	35	41	26	24	17	35	17	37	20	32	51	19	63	37	97	82	95	140	100	159	171	151	-	3,904
H21	62	83	45	42	32	54	39	23	25	19	51	33	49	21	54	40	66	75	66	57	73	101	114	120	96	106	3,820
H20	115	77	47	53	27	30	17	20	16	20	13	15	14	17	29	33	37	51	81	104	89	103	114	114	136	-	3,718

年齢構成

	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H22	80	199	699	716	650	601	417	214	127	71	40	75	3	12	3,904
H21	83	214	678	717	645	574	427	218	109	45	39	56	7	8	3,820

(80)手足口病



手足口病（48小児科定点）

定点からの年間報告数は2,315例あり、前年と比較し3倍以上増加した。第28週をピークに、7月から8月にかけて県内全域で流行が見られた。

年齢構成では、1～4歳の報告が多く、約8割(77.1%)を占めた。



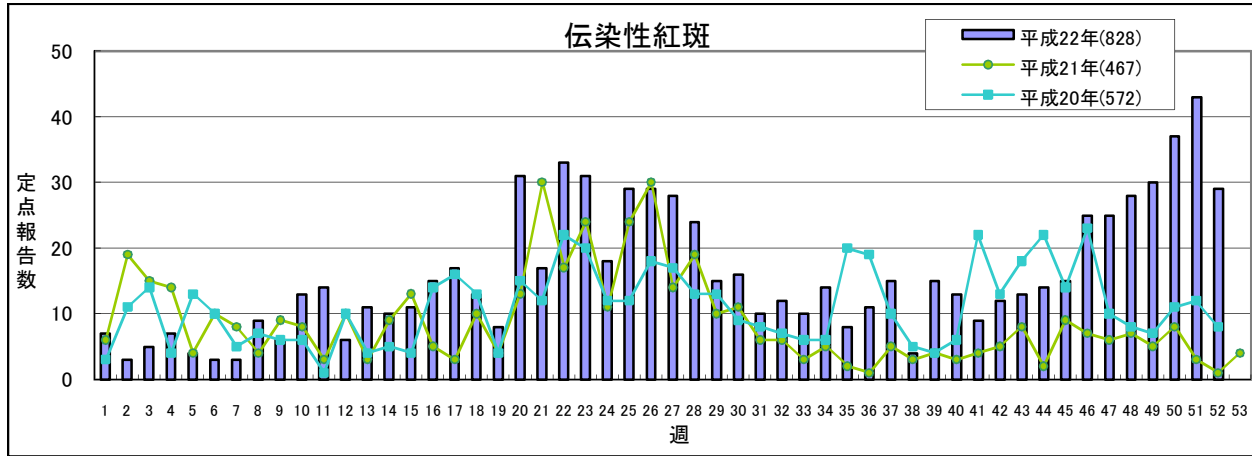
平成22年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	6	3	0	0	0	0	1	2	1	0	2	1	0	1	2	0	2	0	1	4	5	13	16	21	20	16	28
郡山市	1	0	0	0	0	1	0	2	0	2	5	3	2	3	2	6	1	0	3	4	4	5	4	5	13	8	29
県中	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	1	2	6	4	5	4	12	35
県南	0	4	0	0	0	0	0	2	0	4	1	1	2	0	0	1	1	0	1	6	2	9	7	6	5	11	14
会津	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	3	5	4	3	4	10	15	15	28
南会津	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	0	2	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
いわき市	4	1	1	2	2	0	0	5	0	0	0	0	0	0	1	2	1	1	0	4	6	4	3	13	12	9	25
H22	11	11	3	3	2	1	2	11	3	6	8	5	4	5	6	10	6	2	8	25	23	40	38	60	69	71	160
H21	2	4	4	0	3	7	5	2	2	1	2	1	0	1	0	0	5	4	1	4	9	3	5	8	2	6	6
H20	2	2	4	3	3	3	3	1	0	0	1	0	1	0	1	2	2	1	1	3	2	2	1	4	3	1	12
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計
県北	58	39	33	39	30	19	14	10	15	15	7	7	11	3	5	4	0	2	3	1	0	3	0	1	1	-	465
郡山市	30	33	42	32	16	17	11	12	6	6	4	2	2	5	3	3	0	1	1	1	0	1	0	2	1	-	334
県中	32	25	21	19	18	6	14	12	5	5	3	1	2	1	0	0	2	2	1	1	0	0	0	1	0	-	244
県南	19	22	3	5	2	5	6	5	6	4	0	0	10	6	4	2	0	1	1	2	0	1	0	2	0	-	183
会津	50	42	47	24	17	16	11	17	10	11	10	1	6	12	17	13	4	2	0	2	3	0	0	0	0	-	407
南会津	6	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	11
相双	1	1	1	5	4	3	4	7	15	22	16	7	9	8	2	8	6	6	2	0	1	2	2	2	0	-	140
いわき市	16	21	26	16	17	19	25	26	23	25	31	22	28	22	17	12	20	15	19	11	6	9	5	3	1	-	531
H22	212	186	173	140	104	85	85	90	80	88	71	40	68	57	48	42	32	29	27	18	10	16	7	11	3	-	2,315
H21	5	14	9	11	18	20	32	32	40	44	36	27	25	41	38	35	38	31	26	27	30	13	17	19	13	5	733
H20	25	36	60	55	68	57	44	64	77	56	45	53	56	55	58	34	33	32	22	31	22	14	24	15	12	-	1,106

年齢構成

	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H22	16	154	650	509	307	234	172	89	57	42	19	47	2	17	2,315
H21	3	45	209	181	98	77	48	22	19	10	2	15	1	3	733

(81)伝染性紅斑



伝染性紅斑（48小児科定点）

定点からの年間報告数は828例あり、前年と比較して約8割増加した。5月から7月に郡山市、県中で流行、11月から12月に郡山市、県中、会津で流行が見られた。

年齢構成では、4歳～6歳の報告が多く、約5割(48.3%)を占めた。

少ない 多い

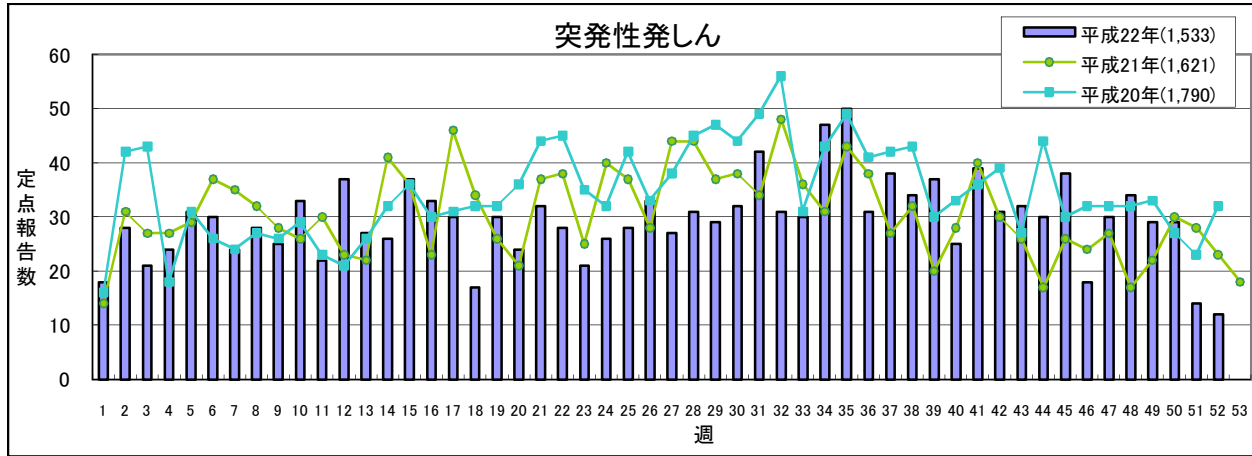
平成22年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	2	0	0	4	3	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	1	4	3	5	8	4	9	8	4	5	10	6
郡山市	0	0	1	1	0	1	1	1	5	9	5	5	6	7	8	9	7	7	2	19	8	18	18	9	16	7	14
県中	4	2	3	2	1	2	2	7	1	3	7	1	3	1	1	2	2	2	1	2	3	3	5	3	4	10	3
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	5
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
いわき市	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	2	0	1	1	1	3	4	1	0	1	1	2	0	2	4	0	0
H22	7	3	5	7	4	3	3	9	6	13	14	6	11	10	11	15	17	13	8	31	17	33	31	18	29	29	28
H21	6	19	15	14	4	10	8	4	9	8	3	10	3	9	13	5	3	10	4	13	30	17	24	11	24	30	14
H20	3	11	14	4	13	10	5	7	6	6	1	10	4	5	4	14	16	13	4	15	12	22	20	12	12	18	17
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計
県北	4	0	3	3	0	0	2	0	0	1	2	3	4	2	2	2	1	3	4	3	5	7	2	6	3	-	141
郡山市	10	11	7	5	5	5	9	5	5	4	0	4	1	0	1	4	4	3	11	8	10	7	7	15	13	-	338
県中	6	2	3	1	2	3	3	1	3	6	1	3	6	6	6	5	7	2	7	7	4	6	5	5	3	-	183
県南	4	0	1	0	3	1	0	0	1	1	0	1	2	0	0	0	1	0	1	2	0	0	0	0	0	-	28
会津	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	3	0	0	2	2	0	6	2	5	7	8	15	12	5	-	70
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	1
いわき市	0	1	2	1	1	1	0	2	2	3	0	1	0	1	1	0	1	1	0	0	2	2	8	5	5	-	67
H22	24	15	16	10	12	10	14	8	11	15	4	15	13	9	12	13	14	15	25	25	28	30	37	43	29	-	828
H21	19	10	11	6	6	3	5	2	1	5	3	4	3	4	5	8	2	9	7	6	7	5	8	3	1	4	467
H20	13	13	9	8	7	6	6	20	19	10	5	4	6	22	13	18	22	14	23	10	8	7	11	12	8	-	572

年齢構成

	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H22	1	9	35	59	73	114	162	124	74	61	40	62	0	14	828
H21	0	10	32	37	53	60	74	59	48	36	32	23	1	2	467

(82) 突発性発しん



突発性発しん（48小児科定点）

定点からの年間報告数は1,533例あり、例年どおりの報告数となった。

年齢構成では、1歳までの報告がほとんど(95.6%)であった。

少ない 多い

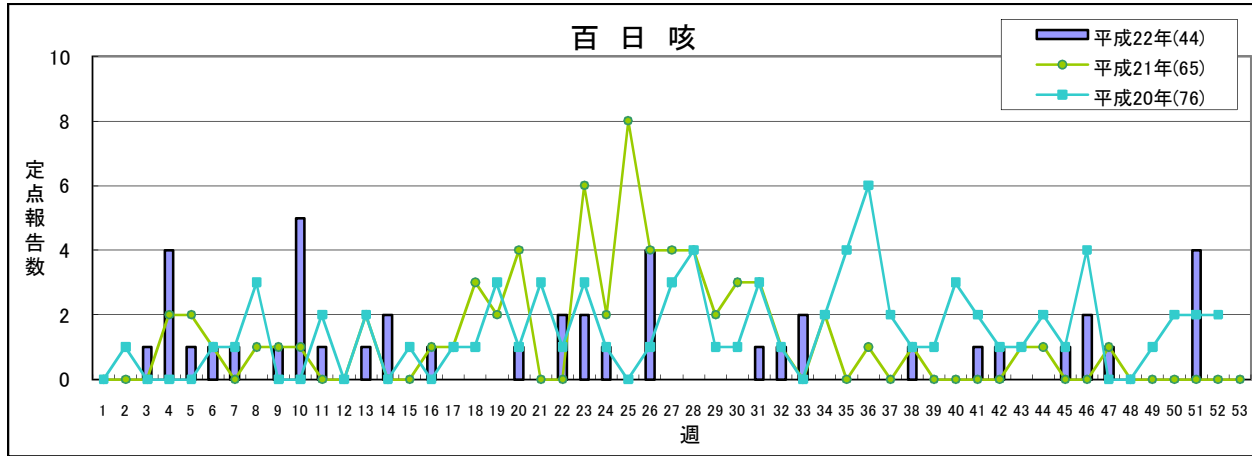
平成22年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	6	6	4	6	8	10	4	11	7	10	6	5	6	4	14	7	6	3	9	4	8	7	6	5	5	5	5
郡山市	6	4	2	4	9	7	7	5	4	6	5	6	5	7	8	4	7	4	4	3	8	5	2	8	6	7	6
県中	2	5	6	3	1	1	6	1	3	4	2	3	6	2	5	2	3	2	3	2	2	5	1	3	5	8	4
県南	1	4	1	0	3	1	2	2	4	3	4	1	2	2	1	1	1	0	1	0	1	0	2	3	4	2	3
会津	1	4	3	4	4	4	2	1	1	3	0	6	0	2	0	2	4	3	2	4	5	1	2	1	2	0	2
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	1	0	2	1	1	1	0	4	0	2	0	7	2	3	1	4	3	0	1	2	3	1	2	0	1	5	2
いわき市	1	5	3	6	5	6	3	4	6	5	5	9	6	6	8	13	6	5	10	9	5	9	6	6	5	6	5
H22	18	28	21	24	31	30	24	28	25	33	22	37	27	26	37	33	30	17	30	24	32	28	21	26	28	33	27
H21	14	31	27	27	29	37	35	32	28	26	30	23	22	41	36	23	46	34	26	21	37	38	25	40	37	28	44
H20	16	42	43	18	31	26	24	27	26	29	23	21	26	32	36	30	31	32	32	36	44	45	35	32	42	33	38
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計
県北	4	7	7	7	11	5	14	12	13	9	9	7	8	12	9	8	5	13	4	5	11	5	7	5	5	-	379
郡山市	6	2	7	9	1	9	7	11	5	4	10	4	5	5	6	4	10	6	2	7	4	7	5	2	0	-	287
県中	1	4	2	1	1	1	2	5	4	6	0	3	2	2	6	12	4	5	5	1	4	0	1	1	3	-	166
県南	5	5	2	6	2	1	5	3	1	4	4	3	1	5	0	1	2	5	0	2	5	2	2	1	1	-	117
会津	3	1	4	4	3	3	6	4	0	4	1	6	1	7	0	2	0	1	1	8	4	3	1	2	0	-	132
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0
相双	1	2	4	4	1	1	5	4	0	0	2	0	3	3	3	0	2	2	2	1	2	1	4	0	0	-	96
いわき市	11	8	6	11	12	10	8	11	8	11	8	14	5	5	7	5	7	6	4	6	4	11	9	3	3	-	356
H22	31	29	32	42	31	30	47	50	31	38	34	37	25	39	31	32	30	38	18	30	34	29	29	14	12	-	1,533
H21	44	37	38	34	48	36	31	43	38	27	32	20	28	40	30	26	17	26	24	27	17	22	30	28	23	18	1,621
H20	45	47	44	49	56	31	43	49	41	42	43	30	33	36	39	27	44	30	32	32	32	33	27	23	32	-	1,790

年齢構成

	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H22	50	800	616	55	5	1	2	1	1	0	0	1	0	1	1,533
H21	51	865	643	54	2	1	2	0	2	0	1	0	0	0	1,621

(83)百日咳



百日咳（48小児科定点）

定点からの年間報告数は44例あった。
年齢構成は、3歳までの報告が約3割(33.8%)、10歳以上の報告が約4割(40.9%)であった。



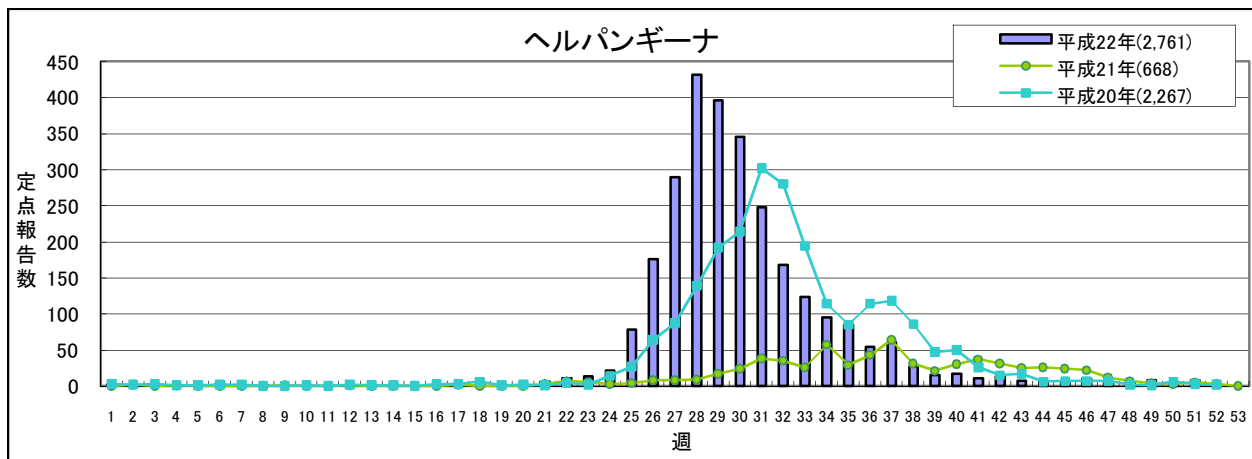
平成22年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w	
県北	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	1	0	1	2	0	1	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	4	0
郡山市	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H22	0	0	1	4	1	1	1	0	1	5	1	0	1	2	0	1	0	0	0	1	0	2	2	1	0	4	0	
H21	0	0	0	2	2	1	0	1	1	1	0	0	2	0	0	1	1	3	2	4	0	0	6	2	8	4	4	
H20	0	1	0	0	0	1	1	3	0	0	2	0	2	0	1	0	1	1	3	1	3	1	3	1	0	1	3	
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計	
県北	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	3	0	-	23		
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	-	4	
県中	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	2	
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	2	
会津	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	-	12	
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	1	
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	
H22	0	0	0	1	1	2	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	1	2	1	0	0	0	4	0	-	44	
H21	4	2	3	3	1	0	2	0	1	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	65	
H20	4	1	1	3	1	0	2	4	6	2	1	1	3	2	1	1	2	1	4	0	0	1	2	2	2	-	76	

年齢構成

	~5ヶ月	~11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	20歳~	合計
H22	0	7	3	1	4	4	4	1	0	0	2	6	1	11	44
H21	5	5	8	5	4	5	4	2	0	3	3	16	1	4	65

(84)ヘルパンギーナ



ヘルパンギーナ（48小児科定点）

定点からの年間報告数は2,761例あり、前年と比較し4倍以上増加した。7月頃から会津、相双、いわき市を中心に流行が始まり、南会津を除く県内全域で10月頃まで流行が続いた。

年齢構成では、1歳～3歳の報告が多く、約6割(62.1%)を占めた。

少ない 多い

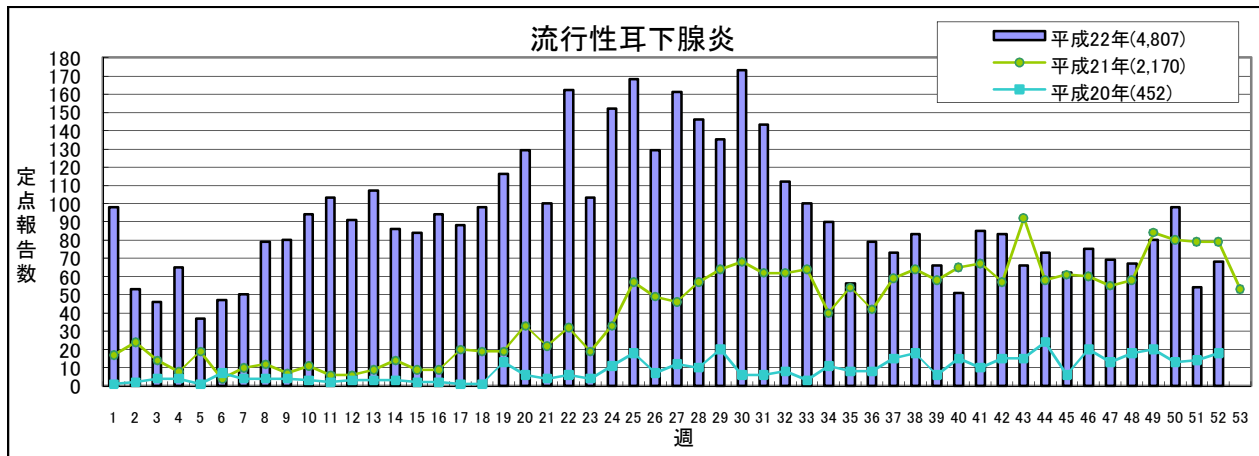
平成22年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w	
県北	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2	6	12	14	26
郡山市	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	1	1	1	5	8	8	8	25	
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	8	13	
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	8	21	
会津	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	4	4	17	43	57	
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
相双	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	20	51	32	
いわき市	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	3	6	6	5	19	42	115
H22	2	1	2	0	1	3	1	1	0	1	0	0	0	2	0	1	0	3	2	2	6	11	13	21	78	176	289	
H21	0	2	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	3	7	5	3	4	8	8	
H20	3	2	3	1	1	2	2	0	0	1	0	2	1	1	0	3	3	6	1	2	1	4	2	14	27	64	87	
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計	
県北	52	74	65	55	55	38	19	15	6	9	6	5	5	0	1	4	2	0	1	1	0	0	0	1	0	-	479	
郡山市	42	31	36	43	22	19	20	10	8	13	7	1	1	2	1	0	1	6	0	0	0	0	0	0	0	-	318	
県中	11	18	21	17	9	18	11	10	4	1	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	-	146	
県南	36	26	20	16	10	11	12	9	5	1	1	0	2	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	1	0	-	183	
会津	69	50	44	26	20	6	8	3	6	3	2	0	1	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	-	374	
南会津	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	5	
相双	29	14	10	5	1	5	1	2	1	3	0	1	0	2	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	-	181	
いわき市	192	183	149	85	50	26	24	35	24	30	10	8	8	6	8	3	3	0	6	2	4	7	3	6	0	-	1075	
H22	431	396	345	248	168	123	95	84	54	60	27	15	17	11	13	7	7	6	10	4	5	8	3	8	0	0	2,761	
H21	9	17	24	38	35	26	57	29	43	64	31	21	30	37	31	25	26	24	22	12	7	4	3	5	3	0	668	
H20	139	192	214	302	280	194	114	85	114	118	86	47	50	26	15	17	6	7	7	7	2	1	6	3	2	-	2,267	

年齢構成

	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H22	18	192	694	588	432	353	220	103	50	30	22	46	6	7	2,761
H21	9	55	209	125	108	70	45	16	12	3	2	13	0	1	668

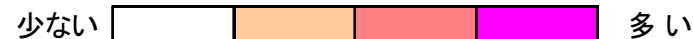
(85) 流行性耳下腺炎



流行性耳下腺炎（48小児科定点）

定点からの年間報告数は4,807例あり、前年と比較し2倍以上増加した。年間をとおして、南会津、相双を除く県内全域で流行が続き、第30週にピークを迎えた。

年齢構成では、4歳をピークに2～7歳の報告が多く、約7割(75.8%)を占めた。



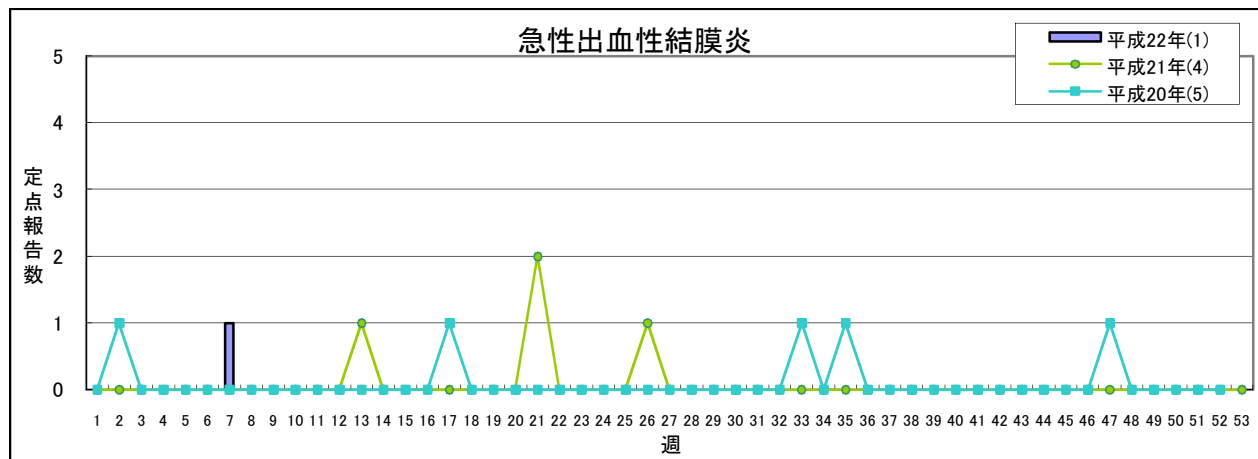
平成22年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	5	3	3	13	1	0	2	4	5	0	7	0	11	8	2	11	3	9	14	20	7	17	21	12	30	15	31
郡山市	16	6	12	14	5	10	9	14	16	7	31	12	17	18	12	36	27	27	32	31	23	47	20	48	39	31	43
県中	18	11	8	13	10	11	13	17	20	21	23	37	27	25	22	25	12	23	37	44	44	57	34	47	58	39	55
県南	11	8	5	3	2	4	3	7	7	5	1	3	4	6	6	4	3	8	0	4	2	2	8	7	1	7	5
会津	13	10	10	11	10	9	12	20	16	28	24	21	29	17	24	13	27	12	23	22	13	28	15	33	27	24	19
南会津	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	6	0	2	1	1	0	3	2	1	3	2	4	5	2	0	0	0	5	1	2	2	1	1	2	1	1	1
いわき市	29	15	5	10	8	13	8	15	15	30	15	14	14	10	18	5	16	14	9	6	9	10	4	3	12	12	7
H22	98	53	46	65	37	47	50	79	80	94	103	91	107	86	84	94	88	98	116	129	100	162	103	152	168	129	161
H21	17	24	14	8	19	4	10	12	7	11	6	6	9	14	9	9	20	19	19	33	22	32	19	33	57	49	46
H20	1	2	4	4	1	7	4	4	4	3	2	3	3	3	2	2	1	1	13	6	4	6	4	11	18	7	12
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計
県北	41	27	36	43	37	26	24	15	24	12	25	7	11	15	27	18	25	10	10	23	24	30	39	16	27	-	846
郡山市	32	25	42	38	28	25	32	23	26	37	32	24	23	25	20	19	12	16	19	21	15	11	10	9	12	-	1179
県中	31	50	48	34	18	24	17	2	13	12	12	11	9	12	15	7	7	9	11	3	5	2	5	4	2	-	1114
県南	5	7	2	0	9	3	6	6	5	4	7	2	3	9	5	6	9	13	16	10	11	26	26	16	13	-	345
会津	31	20	38	20	12	10	8	5	4	6	2	18	2	17	8	14	16	11	12	11	6	8	17	5	8	-	819
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	-	5
相双	0	0	0	1	1	0	0	3	0	0	1	1	1	0	1	0	1	1	1	0	2	0	0	0	0	-	62
いわき市	6	6	7	7	7	12	3	2	7	2	4	3	2	5	7	1	4	2	6	1	4	3	1	4	5	-	437
H22	146	135	173	143	112	100	90	56	79	73	83	66	51	85	83	66	73	62	75	69	67	80	98	54	68	-	4,807
H21	57	64	68	62	62	64	40	54	42	59	64	58	65	67	57	92	58	61	60	55	58	84	80	79	79	53	2,170
H20	10	20	6	6	8	3	11	8	8	15	18	6	15	10	15	15	24	6	20	13	18	20	13	14	18	-	452

年齢構成

	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H22	3	23	235	405	599	789	773	590	488	321	189	316	22	54	4,807
H21	1	11	146	213	302	377	351	292	174	118	70	92	7	16	2,170

(87)急性出血性結膜炎



急性出血性結膜炎（12眼科定点）

定点からの年間報告数は1例のみであった。



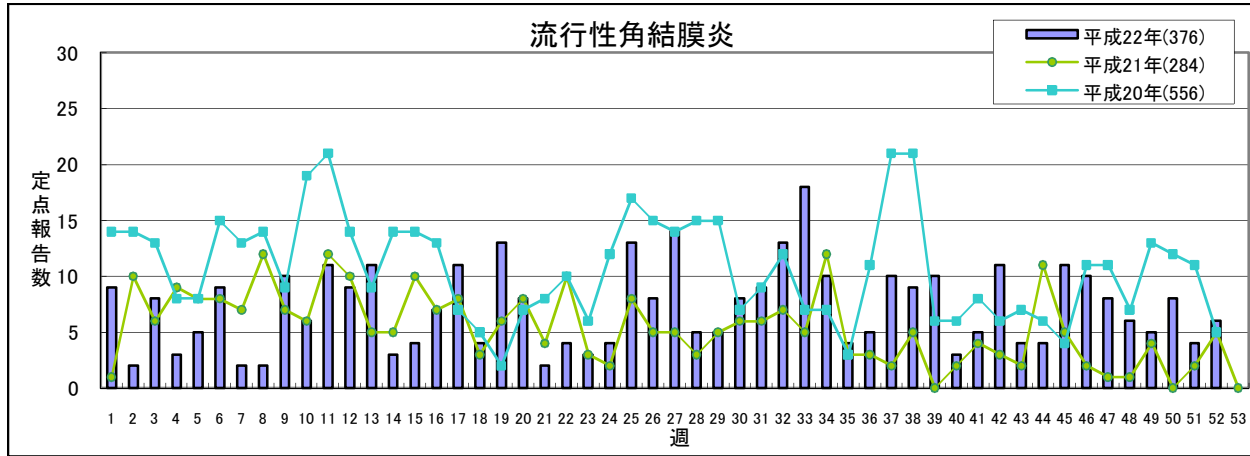
平成22年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会津	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H22	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0
H20	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	1
南会津	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0
H22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
H21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
H20	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	—	5

年齢構成

	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	～29歳	～39歳	～49歳	～59歳	～69歳	70歳～	合計
H22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
H21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	1	0	4

(88) 流行性角結膜炎



流行性角結膜炎（12眼科定点）

定点からの年間報告数は376例あり、年間をとおして継続した流行は見られなかった。

年齢構成では、20歳以上の報告が、約8割(80.6%)を占めた。



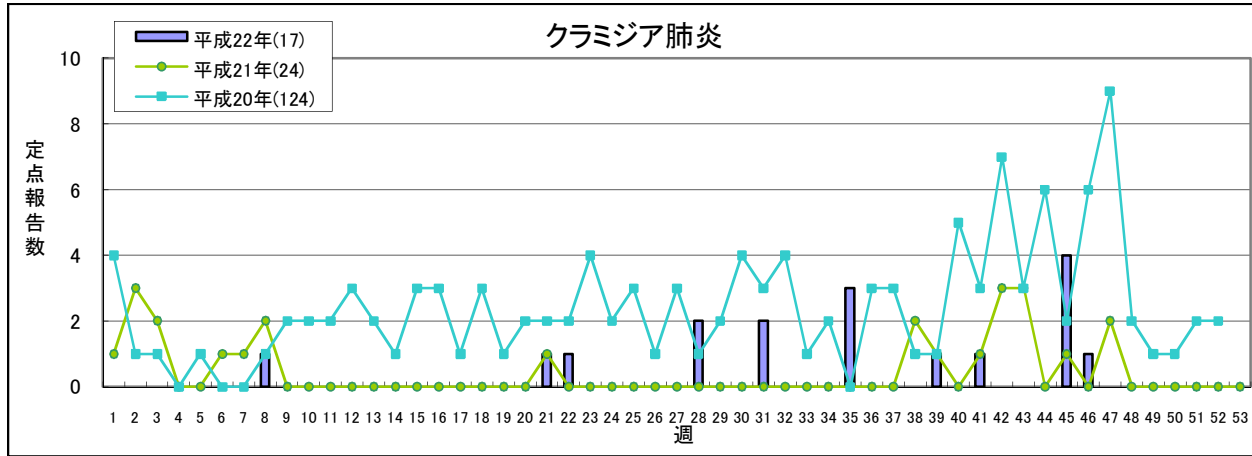
平成22年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	1	0	1	0	2	0	0	0	2	0	2	0	0	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	2	2	1	2
郡山市	3	0	2	0	1	5	1	1	4	4	4	6	7	1	3	4	5	1	4	2	1	1	2	0	3	3	5
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	3	0
県南	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	2	0	0
会津	0	0	0	0	0	1	0	0	3	0	3	1	0	0	0	0	2	0	6	3	0	2	1	2	2	0	3
南会津	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
相双	2	0	2	2	1	1	1	1	1	1	0	0	0	1	0	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1
いわき市	1	1	3	1	1	2	0	0	0	1	2	1	4	1	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	4	1	3
H22	9	2	8	3	5	9	2	2	10	6	11	9	11	3	4	7	11	4	13	8	2	4	3	4	13	8	14
H21	1	10	6	9	8	8	7	12	7	6	12	10	5	5	10	7	8	3	6	8	4	10	3	2	8	5	5
H20	14	14	13	8	8	15	13	14	9	19	21	14	9	14	14	13	7	5	2	7	8	10	6	12	17	15	14
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計
県北	1	2	0	2	0	3	1	0	0	4	0	2	0	1	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	—	39
郡山市	1	0	5	2	4	4	2	0	1	0	3	1	0	1	1	3	1	5	3	0	3	2	2	0	1	—	118
県中	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	1	—	15
県南	0	2	0	0	1	1	1	0	0	2	3	4	2	0	1	0	0	3	6	1	1	2	1	1	1	—	41
会津	1	0	0	3	5	8	3	2	0	1	1	1	0	2	3	1	3	3	1	4	0	1	2	1	1	—	76
南会津	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
相双	0	0	2	1	2	2	2	1	2	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2	1	0	1	2	2	—	43
いわき市	1	1	1	0	1	0	1	1	1	2	2	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	44
H22	5	5	8	9	13	18	10	4	5	10	9	10	3	5	11	4	4	11	10	8	6	5	8	4	6	—	376
H21	3	5	6	6	7	5	12	3	3	2	5	0	2	4	3	2	11	5	2	1	1	4	0	2	5	0	284
H20	15	15	7	9	12	7	7	3	11	21	21	6	6	8	6	7	6	4	11	11	7	13	12	11	5	—	556

年齢構成

	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	～29歳	～39歳	～49歳	～59歳	～69歳	70歳～	合計
H22	1	1	4	3	4	6	6	3	8	4	4	10	19	76	73	51	39	33	31	376
H21	1	2	6	4	10	5	8	3	2	2	6	11	10	48	63	40	30	14	19	284

(93)クラミジア肺炎(オウム病を除く)



クラミジア肺炎 (7基幹定点)

定点からの年間報告数は郡山市からの9例、いわき市からの8例であった。

年齢構成では、5～9歳以上が約3割(29.4%)を占めた。



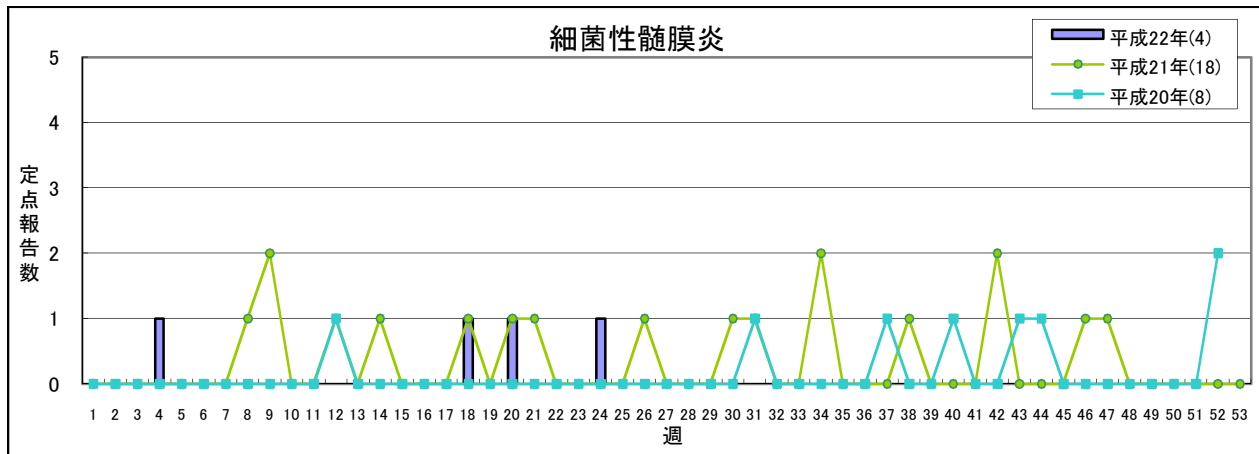
平成22年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
県中	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
H22	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0
H21	1	3	2	0	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
H20	4	1	1	0	1	0	0	1	2	2	2	3	2	1	3	3	1	3	1	2	2	2	4	2	3	1	3
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0
郡山市	1	0	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	—	9
県中	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0
いわき市	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	—	8
H22	2	0	0	2	0	0	0	3	0	0	0	1	0	1	0	0	0	4	1	0	0	0	0	0	0	—	17
H21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	1	3	3	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	24
H20	1	2	4	3	4	1	2	0	3	3	1	1	5	3	7	3	6	2	6	9	2	1	1	2	2	—	124

年齢構成

	～0歳	～4歳	～9歳	～14歳	～19歳	～24歳	～29歳	～34歳	～39歳	～44歳	～49歳	～54歳	～59歳	～64歳	～69歳	70歳～	合計
H22	0	1	5	2	0	0	0	2	2	1	0	0	1	1	0	2	17
H21	0	4	1	2	3	0	1	1	1	0	0	2	1	0	1	7	24

(94)細菌性髄膜炎



細菌性髄膜炎（7基幹定点）

定点からの年間報告数は郡山市から1例、いわき市から3例あった。

少ない 多い

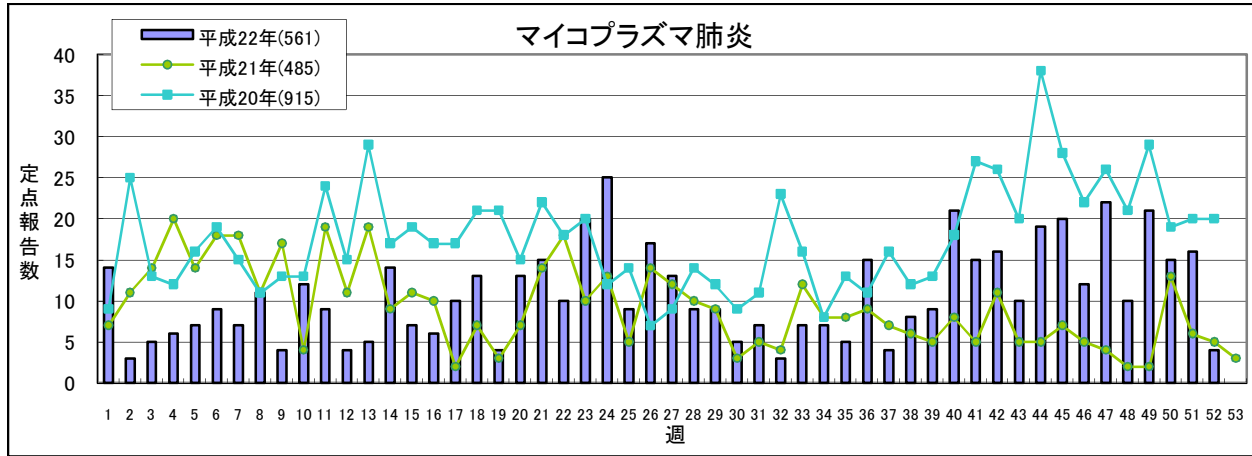
平成22年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
県中	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いわき市	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0
H22	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0
H21	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	1
H20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	1
県中	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	3
H22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	4
H21	0	0	1	1	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	18
H20	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	—	8

年齢構成

	～0歳	～4歳	～9歳	～14歳	～19歳	～24歳	～29歳	～34歳	～39歳	～44歳	～49歳	～54歳	～59歳	～64歳	～69歳	70歳～	合計
H22	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	4
H21	2	3	2	1	1	1	0	0	1	1	0	0	3	0	0	3	18

(96)マイコプラズマ肺炎



マイコプラズマ肺炎（7基幹定点）

定点からの年間報告数は561例あった。相双、いわき市からの報告が多く、いわき市の報告数は全体の約5割（47.6%）を占めた。

年齢構成では、14歳以下の報告が約9割（92.5%）を占めた。

少ない 多い

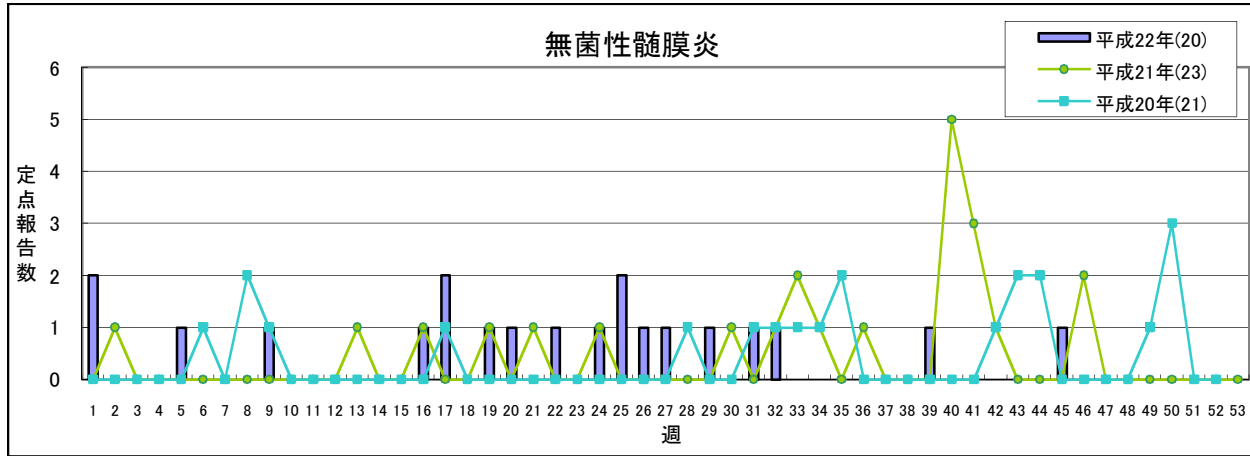
平成22年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	2	2	2	2	2	1	2	2	1	2	2	3	2	2	2	2	2	1	2	3	2	3	2	2	2	2	1
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
県中	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	2	0	1	2	0	2	1	0	0	1	1
相双	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	1	0	3	6	5	5	9	5	3	3
いわき市	11	1	3	4	5	7	5	9	2	10	6	0	2	12	4	1	5	11	1	5	7	0	12	14	2	11	7
H22	14	3	5	6	7	9	7	11	4	12	9	4	5	14	7	6	10	13	4	13	15	10	20	25	9	17	13
H21	7	11	14	20	14	18	18	11	17	4	19	11	19	9	11	10	2	7	3	7	14	18	10	13	5	14	12
H20	9	25	13	12	16	19	15	11	13	13	24	15	29	17	19	17	17	21	21	15	22	18	20	12	14	7	9
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計
県北	1	2	1	1	0	1	2	1	2	2	3	1	2	2	2	1	2	1	1	2	3	2	2	2	3	—	95
郡山市	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	1	1	3	1	1	1	1	1	1	0	1	0	—	20
県中	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0
南会津	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	—	14
相双	3	4	1	2	3	3	2	4	4	2	4	7	8	5	5	6	10	6	3	6	6	7	11	7	0	—	165
いわき市	5	3	2	4	0	2	3	0	9	0	0	1	9	7	8	0	6	12	7	13	0	11	2	6	0	—	267
H22	9	9	5	7	3	7	7	5	15	4	8	9	21	15	16	10	19	20	12	22	10	21	15	16	4	—	561
H21	10	9	3	5	4	12	8	8	9	7	6	5	8	5	11	5	5	7	5	4	2	2	13	6	5	3	485
H20	14	12	9	11	23	16	8	13	11	16	12	13	18	27	26	20	38	28	22	26	21	29	19	20	20	—	915

年齢構成

	～0歳	～4歳	～9歳	～14歳	～19歳	～24歳	～29歳	～34歳	～39歳	～44歳	～49歳	～54歳	～59歳	～64歳	～69歳	70歳～	合計
H22	13	335	135	36	5	4	4	2	3	1	1	2	2	0	0	18	561
H21	7	196	162	61	11	5	5	3	8	1	3	2	1	0	1	19	485

(97)無菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎 (7基幹定点)

定点からの年間報告数は郡山市から17例、会津から1例、いわき市から2例であった。



平成22年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
郡山市	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1	0	1	0	1	2	1	1
県中	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いわき市	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H22	2	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2	0	1	1	0	1	0	1	2	1	1
H21	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0
H20	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0
郡山市	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	—	17
県中	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	1
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0
いわき市	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	2
H22	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	—	20
H21	0	0	1	0	1	2	1	0	1	0	0	0	5	3	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	—	23
H20	1	0	0	1	1	1	1	2	0	0	0	0	0	0	1	2	2	0	0	0	0	1	3	0	—	21	

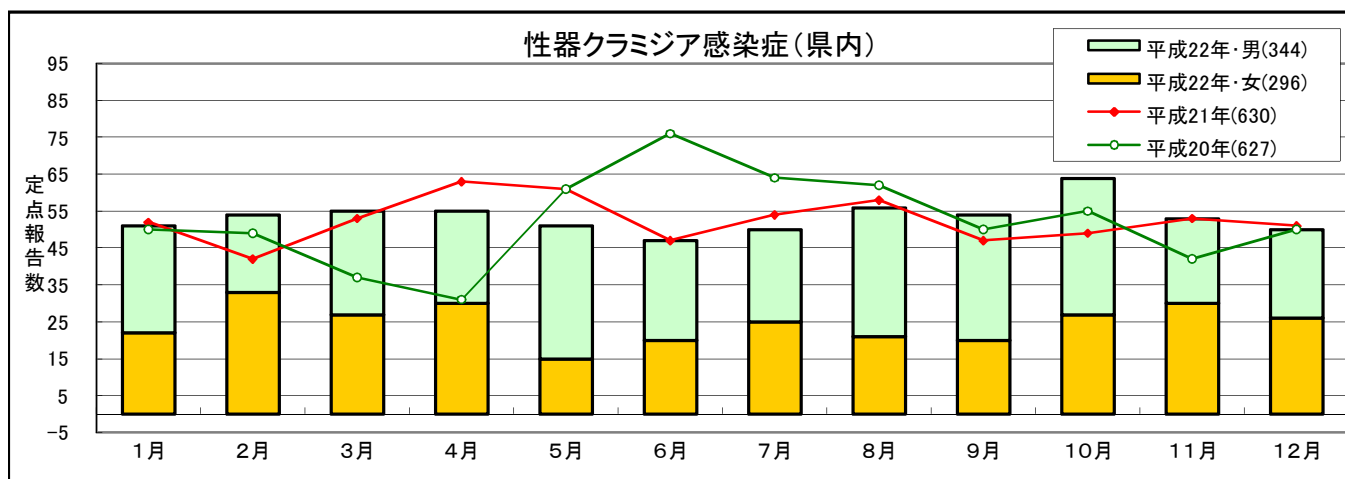
年齢構成

	～0歳	～4歳	～9歳	～14歳	～19歳	～24歳	～29歳	～34歳	～39歳	～44歳	～49歳	～54歳	～59歳	～64歳	～69歳	70歳～	合計
H22	4	0	3	3	1	2	2	1	1	1	0	1	0	0	0	1	20
H21	3	1	3	2	1	2	3	1	4	0	0	0	1	0	0	2	23

(89) 性器クラミジア感染症

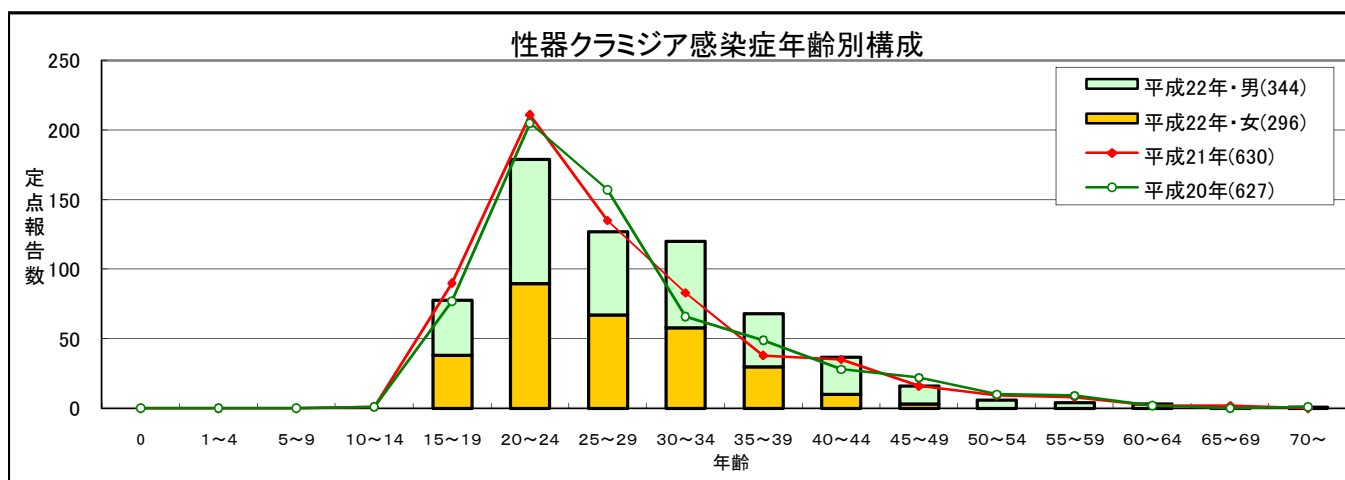
(16STD定点)

定点からの年間報告数は640例(男344例、女296例)あり、20～24歳の報告が多かった。
また、年齢構成の全国との比較では、30～34歳の感染者の占める割合がやや高かった。

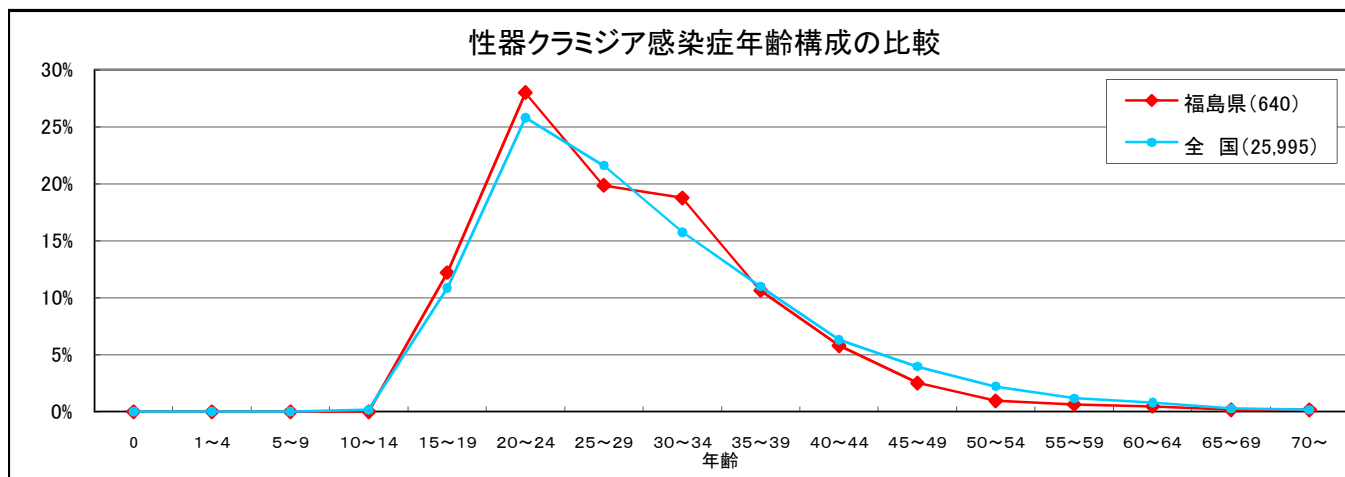


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
平成22年・男(344)	29	21	28	25	36	27	25	35	34	37	23	24	344
平成22年・女(296)	22	33	27	30	15	20	25	21	20	27	30	26	296
平成22年(640)	51	54	55	55	51	47	50	56	54	64	53	50	640
平成21年(630)	52	42	53	63	61	47	54	58	47	49	53	51	630
平成20年(627)	50	49	37	31	61	76	64	62	50	55	42	50	627

平成20～22年 県内の年齢別構成

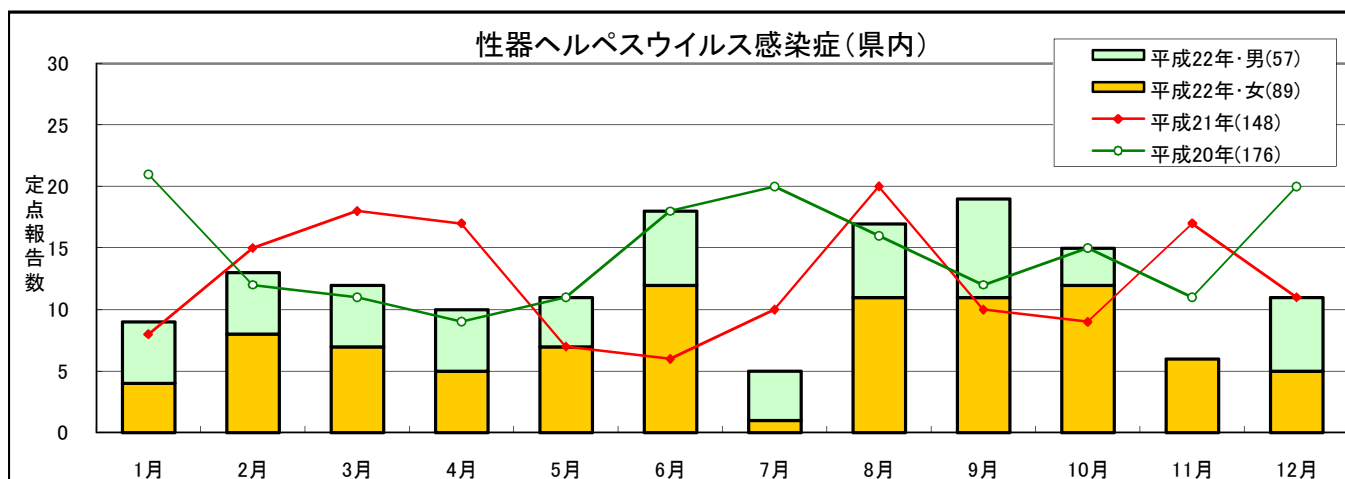


平成22年 年齢構成の比較



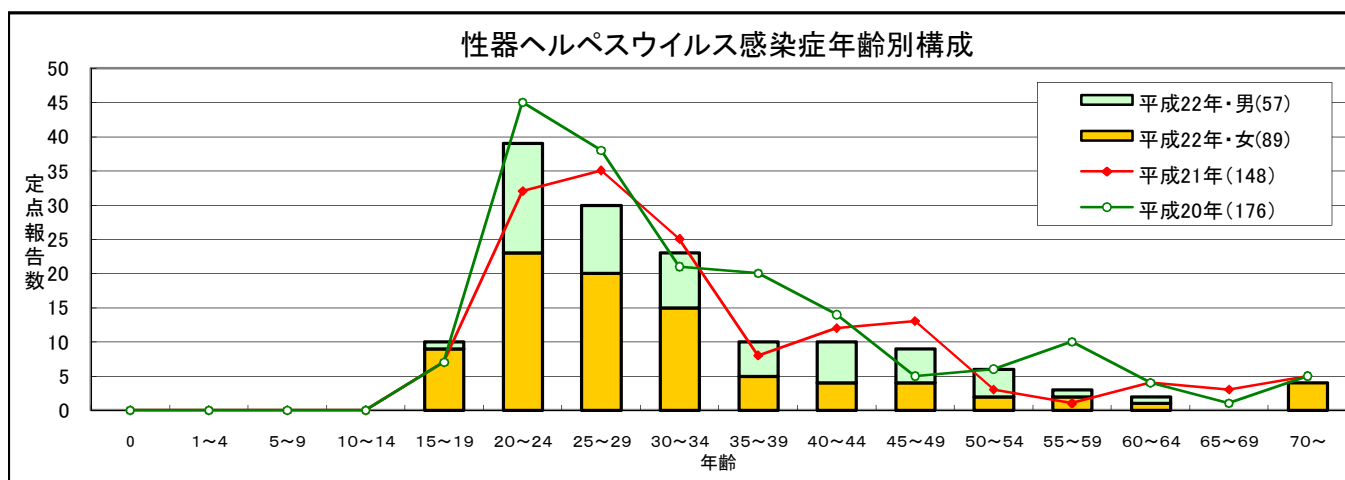
(90) 性器ヘルペスウイルス感染症 (16STD定点)

定点からの年間報告数は146例(男57例、女89例)あり、20～34歳の報告が多かった。
また、年齢構成の全国との比較では、20～29歳の感染者の占める割合が高かった。

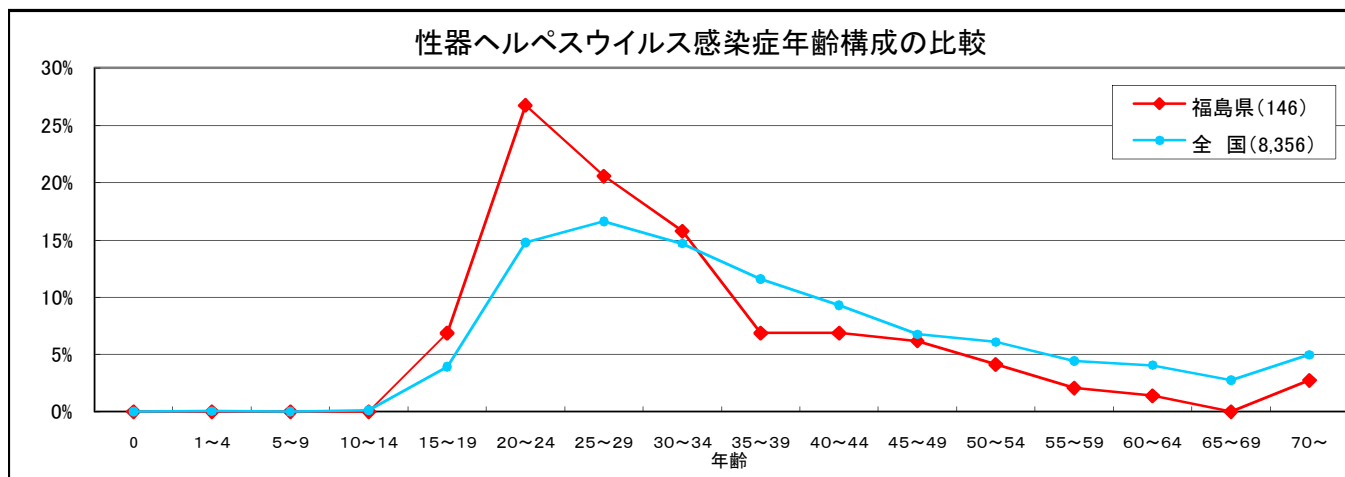


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
平成22年・男(57)	5	5	5	5	4	6	4	6	8	3	0	6	57
平成22年・女(89)	4	8	7	5	7	12	1	11	11	12	6	5	89
平成22年(146)	9	13	12	10	11	18	5	17	19	15	6	11	146
平成21年(148)	8	15	18	17	7	6	10	20	10	9	17	11	148
平成20年(176)	21	12	11	9	11	18	20	16	12	15	11	20	176

平成20～22年 県内の年齢別構成



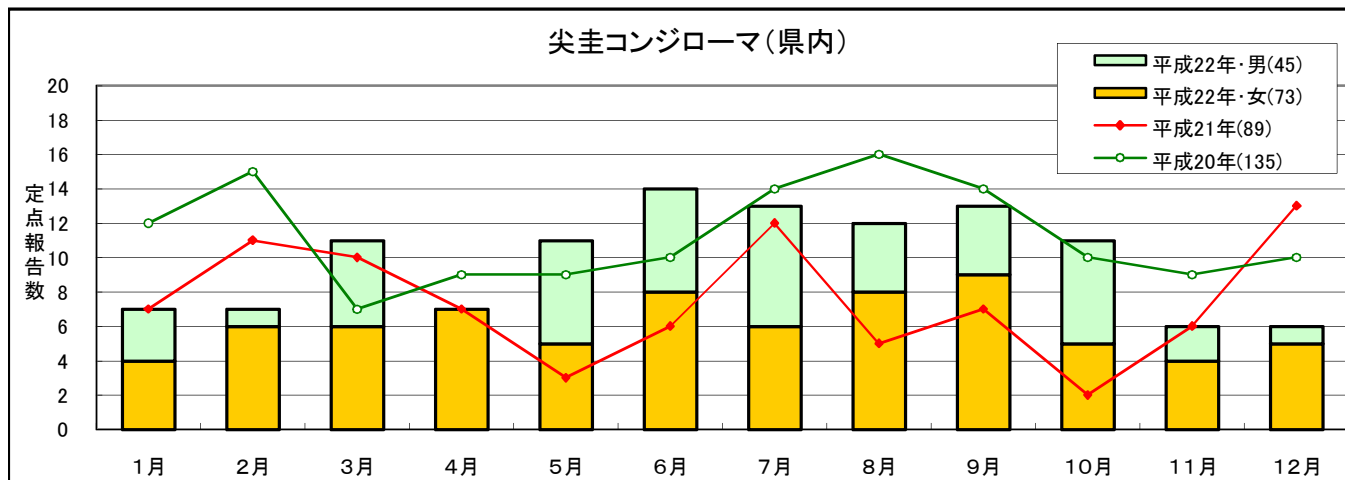
平成22年 年齢構成の比較



(91) 尖圭コンジローマ

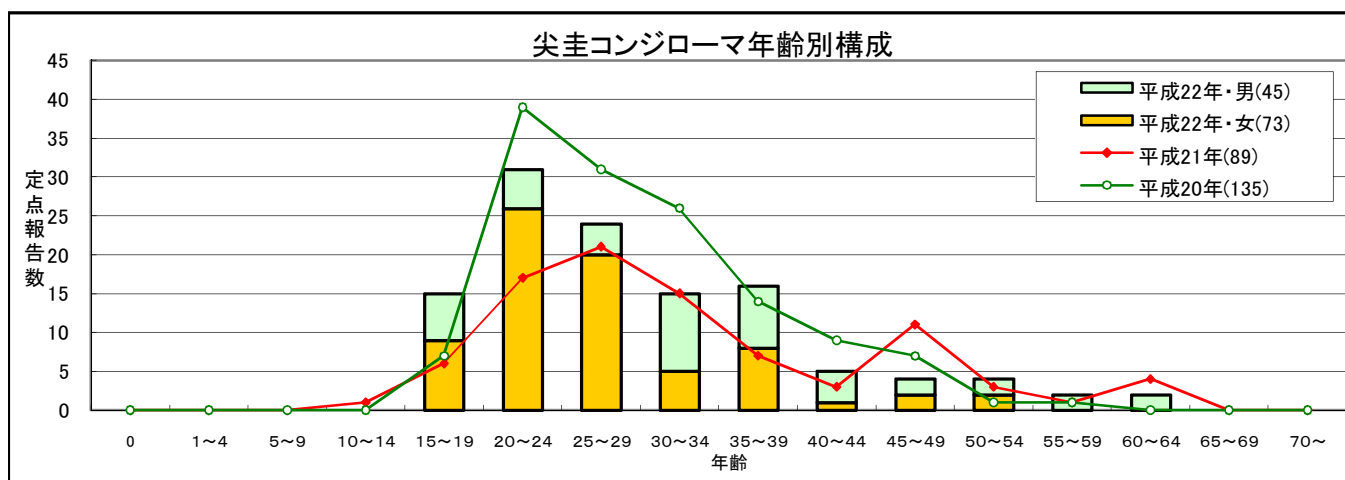
(16STD定点)

定点からの年間報告数は118例(男45例、女73例)あり、20～29歳の報告が多かった。
また、年齢構成の全国との比較では、15～24歳の感染者の占める割合が高かった。

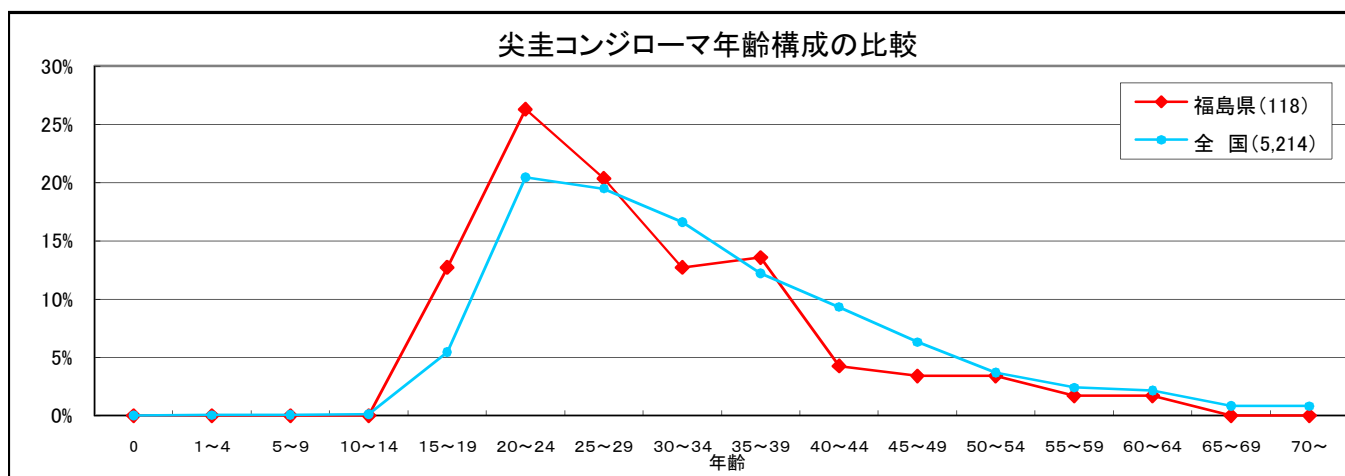


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
平成22年・男(45)	3	1	5	0	6	6	7	4	4	6	2	1	45
平成22年・女(73)	4	6	6	7	5	8	6	8	9	5	4	5	73
平成22年(118)	7	7	11	7	11	14	13	12	13	11	6	6	118
平成21年(89)	7	11	10	7	3	6	12	5	7	2	6	13	89
平成20年(135)	12	15	7	9	9	10	14	16	14	10	9	10	135

平成20～22年 県内の年齢別構成



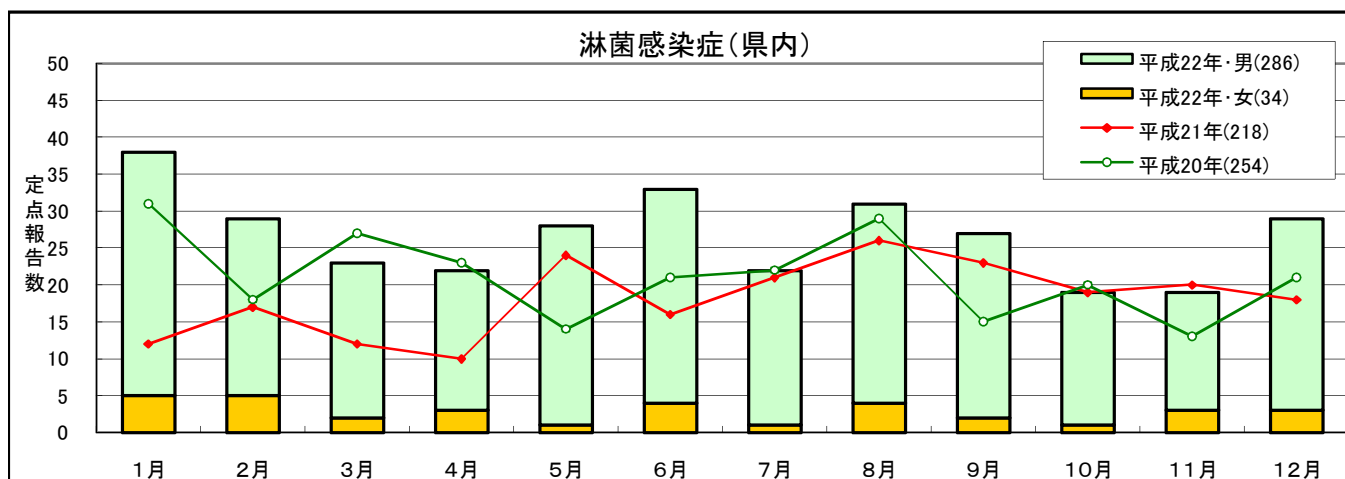
平成22年 年齢構成の比較



(92) 淋菌感染症

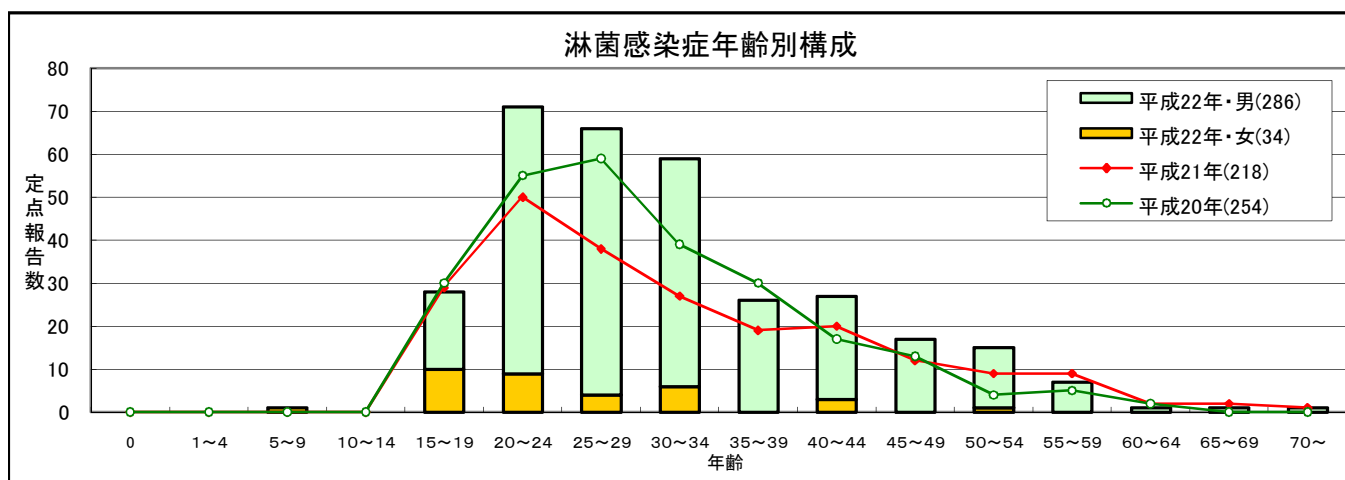
(16STD定点)

定点からの年間報告数は320例(男286例、女34例)あり、20～34歳の報告が多かった。
また、年齢構成の全国との比較では、35～39歳の感染者の占める割合が低かった。

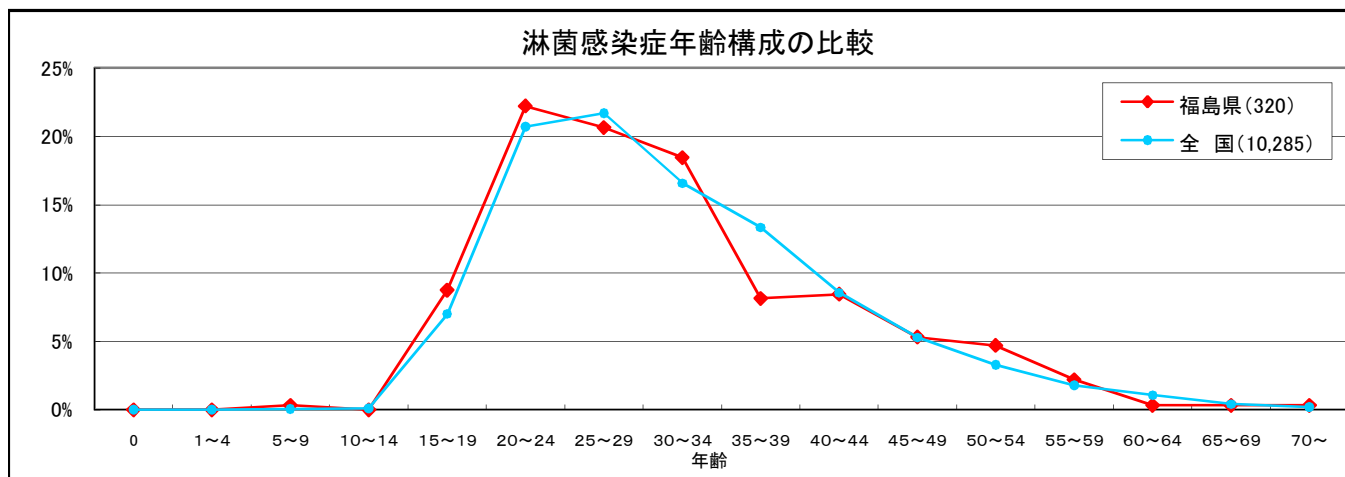


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
平成22年・男(286)	33	24	21	19	27	29	21	27	25	18	16	26	286
平成22年・女(34)	5	5	2	3	1	4	1	4	2	1	3	3	34
平成22年(320)	38	29	23	22	28	33	22	31	27	19	19	29	320
平成21年(218)	12	17	12	10	24	16	21	26	23	19	20	18	218
平成20年(254)	31	18	27	23	14	21	22	29	15	20	13	21	254

平成20～22年 県内の年齢別構成



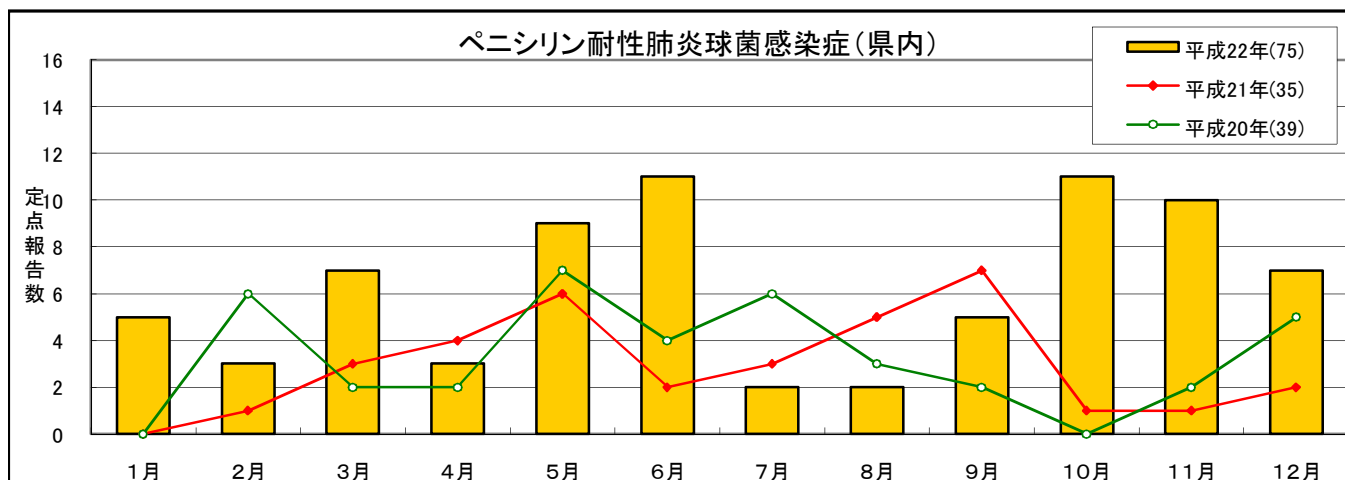
平成22年 年齢構成の比較



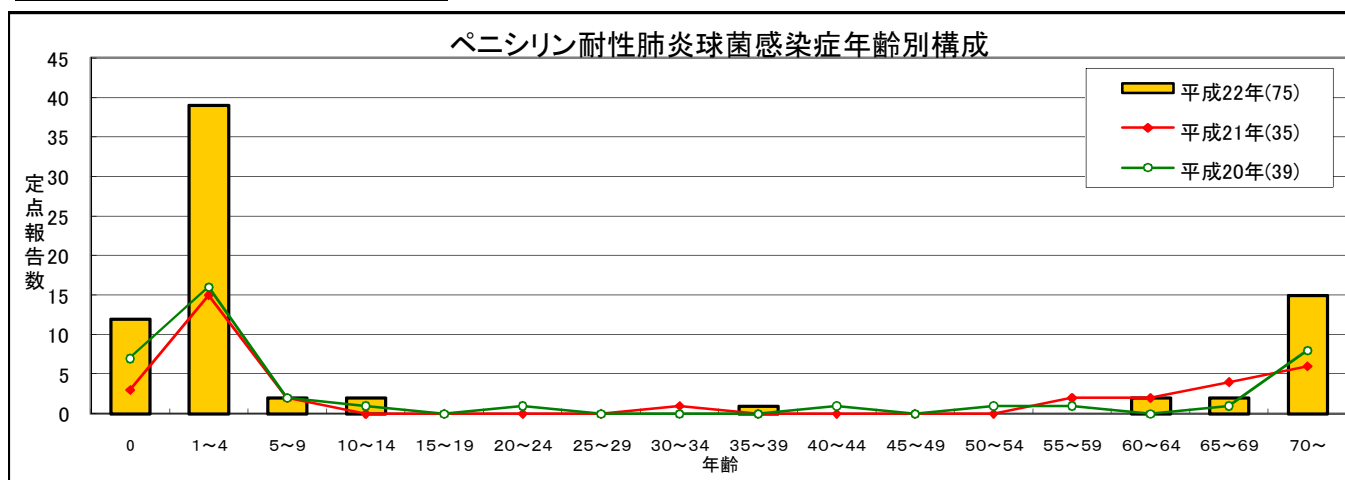
(95) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

(7基幹定点)

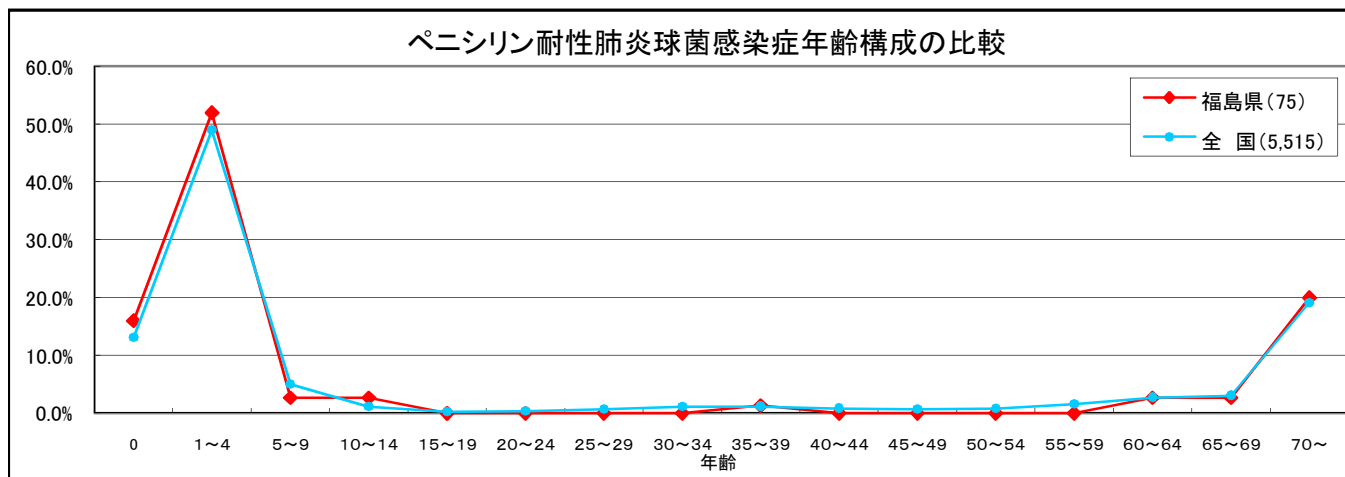
定点からの年間報告数は75例あり、1～4歳の報告が多かった。



平成20～22年 県内の年齢別構成

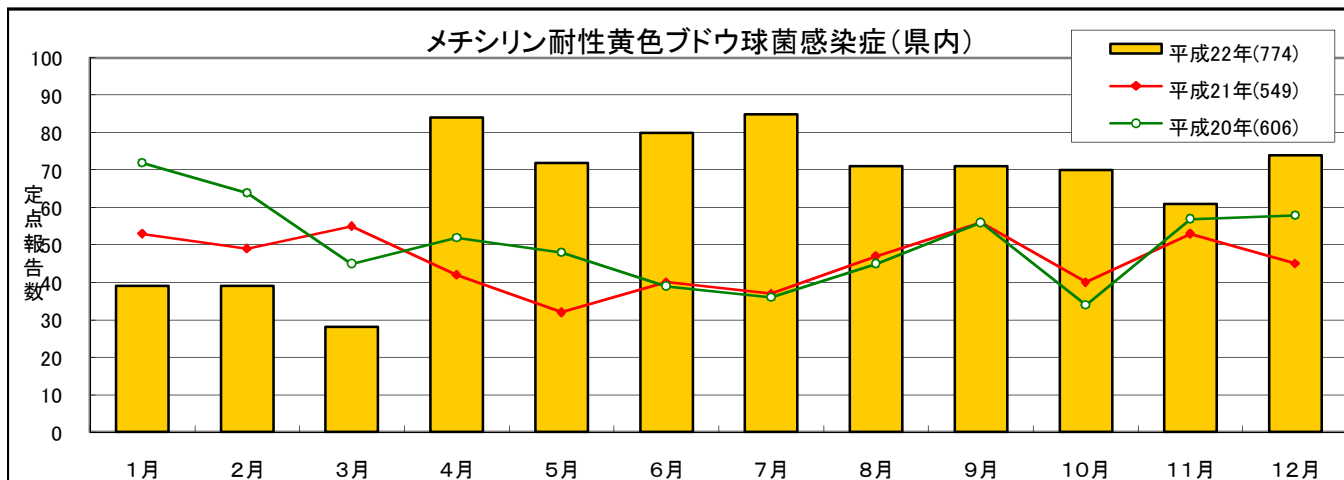


平成22年 年齢構成の比較



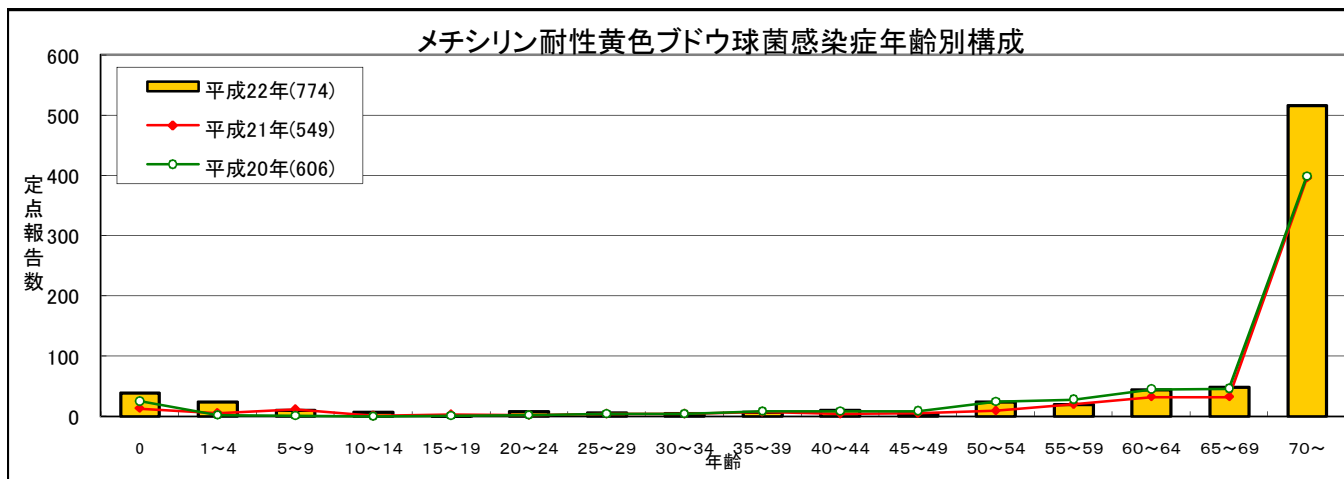
(98)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 (7基幹定点)

定点からの年間報告数は774例あり、70歳以上の報告が多かった。

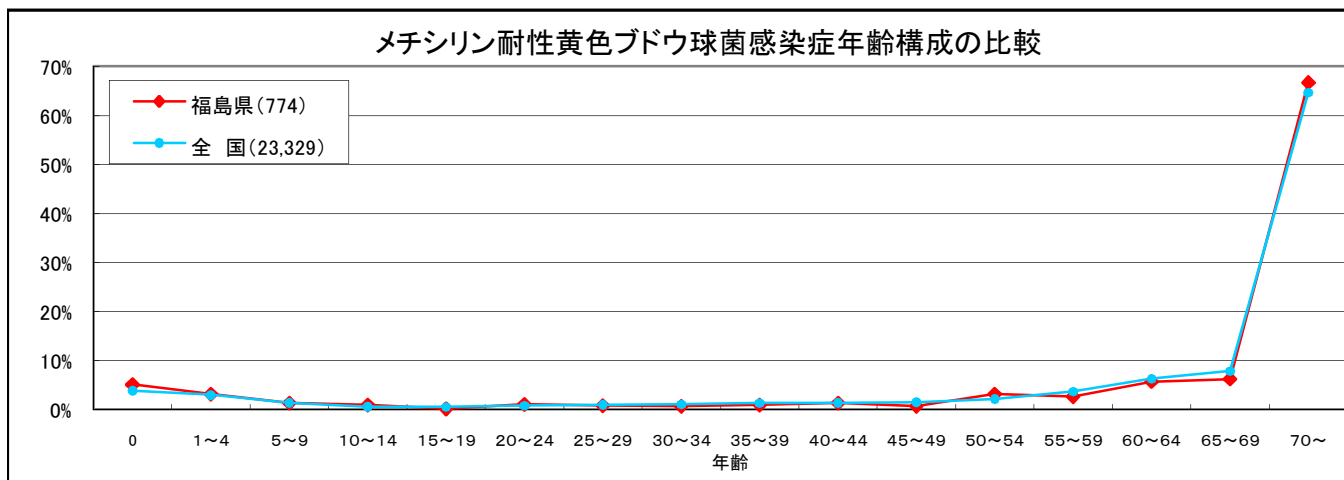


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
平成22年(774)	39	39	28	84	72	80	85	71	71	70	61	74	774
平成21年(549)	53	49	55	42	32	40	37	47	56	40	53	45	549
平成20年(606)	72	64	45	52	48	39	36	45	56	34	57	58	606

平成20～22年 県内の年齢別構成



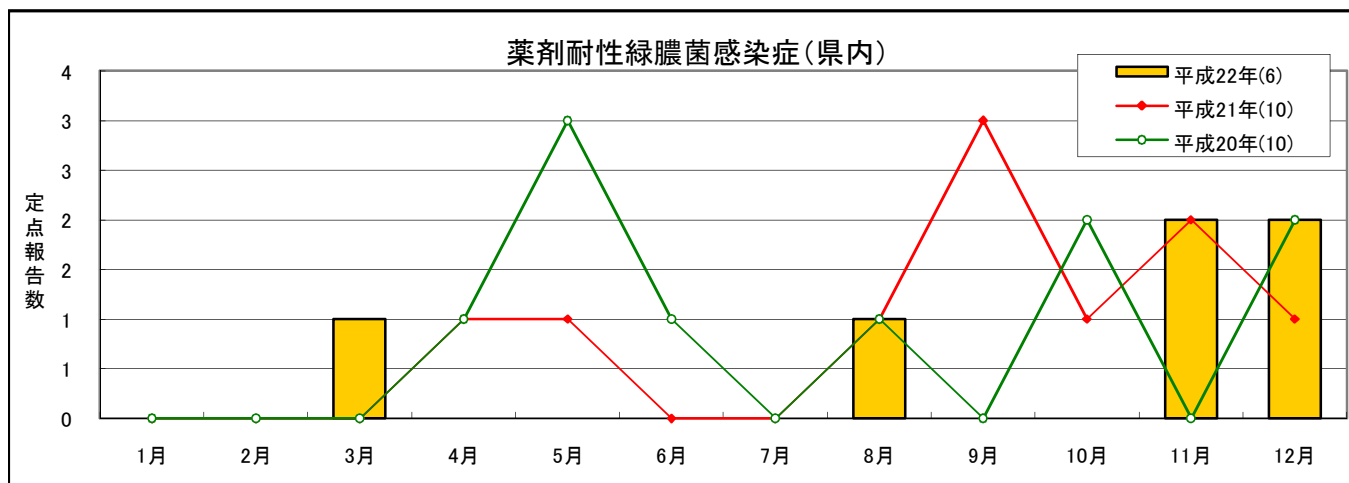
平成22年 年齢構成の比較



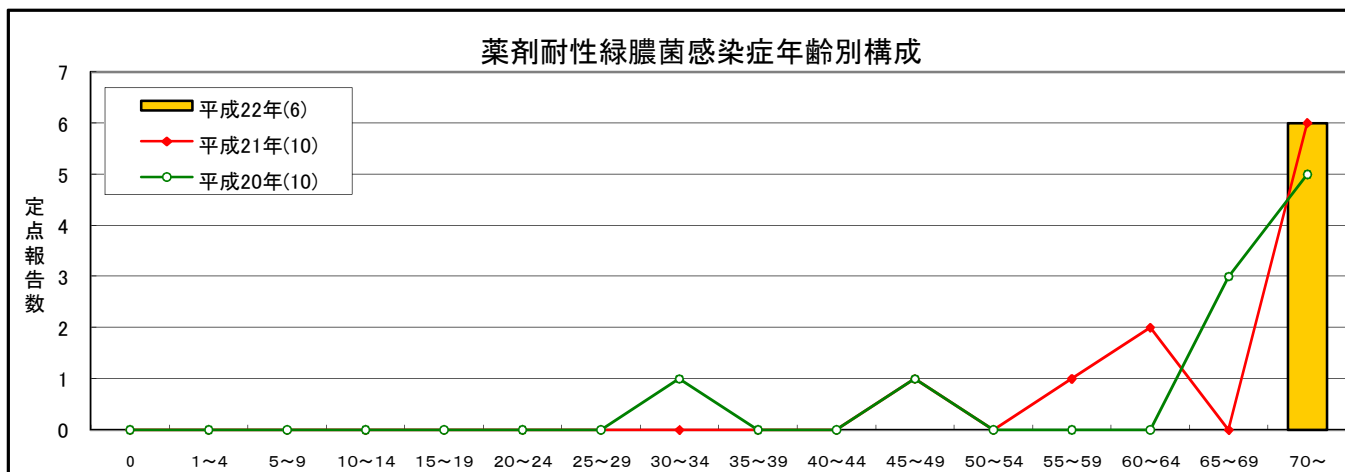
(99)薬剤耐性緑膿菌感染症

(7基幹定点)

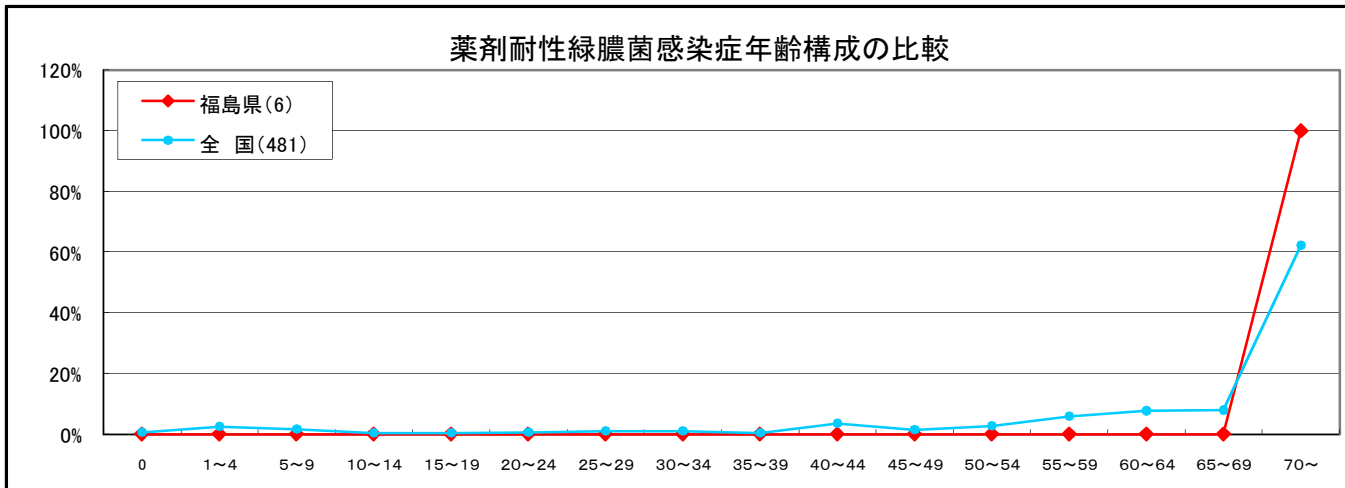
定点からの年間報告数は6例あり、全例70歳以上であった。



平成20～22年 県内の年齢別構成



平成22年 年齢構成の比較



(4) 法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症結果報告

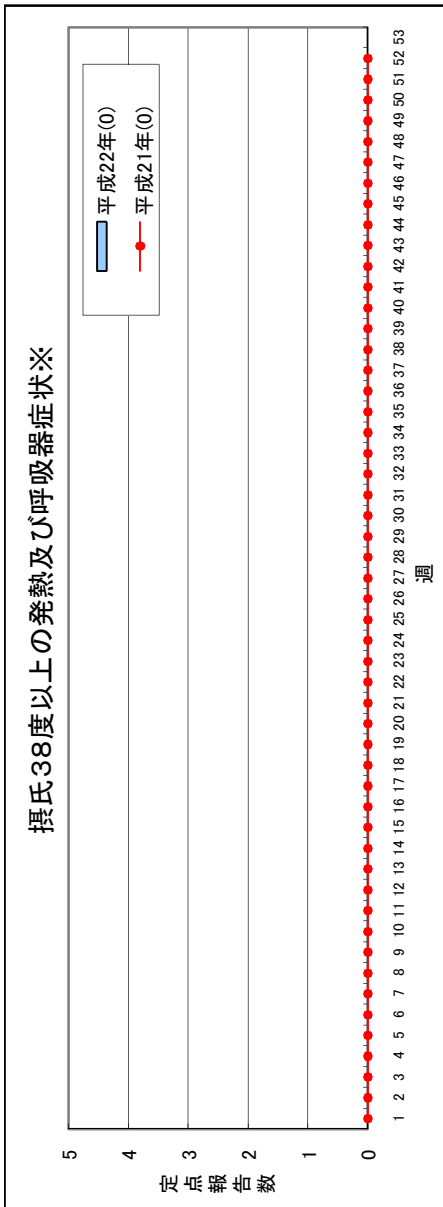
● 法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症対象疾患 (定点把握)

- (102) 摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状〔明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く〕
- (103) 発熱及び発しん又は水疱〔ただし、当該疑似症が二類感染症、三類感染症、四類感染症及び五類感染症の患者の症状であることが明らかな場合を除く〕

● 法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症対象疾患 (定点把握)
患者地域別定点機関数

	疑 似 症 定 点
県 北	30
郡山市	20
県 中	13
県 南	9
会 津	16
南会津	4
相 双	11
いわき市	21
計	124

(102) 摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状※



摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状※

摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状※ (124疑似症定点)

定点からの報告はなかった。



※明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く

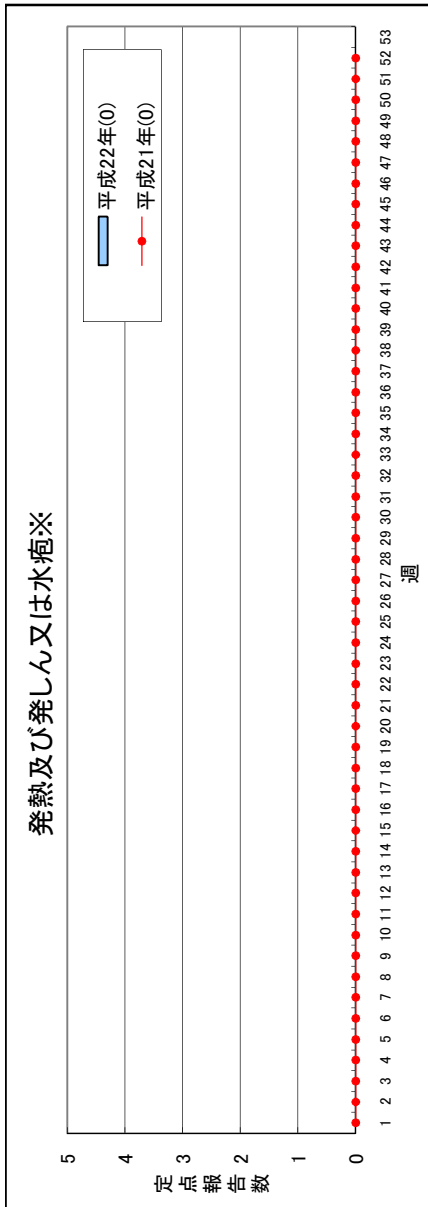
平成22年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w		
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
津会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計		
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
津会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

平成20年4月1日より調査開始

年齢構成	～0歳	～1歳	～3歳	～5歳	～7歳	～9歳	～14歳	～19歳	～29歳	～39歳	～49歳	～59歳	～69歳	～79歳	80歳～	合計
H22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(103) 発熱及び発しん又は水疱※



発熱及び発しん又は水疱※ (124疑似症定点)

定点からの報告はなかった。



※ただし、当該疑似症が二類感染症、三類感染症、四類感染症及び五類感染症の患者の症状であることが明らかなる場合を除く

平成22年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w	合計					
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
津会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
津南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
津南会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
H22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
H21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
H20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	合計						
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
津会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
津南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
津南会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
H22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
H21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

平成20年4月1日より調査開始

年齢構成	～0歳	～1歳	～3歳	～5歳	～7歳	～9歳	～14歳	～19歳	～29歳	～39歳	～49歳	～59歳	～69歳	～79歳	80歳～	合計
H22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

Ⅲ 検 査 情 報

- (1) 2010年感染症発生動向調査事業報告（ウイルス）
- (2) 2010年感染症発生動向調査事業報告（細菌）
- (3) 2010/11シーズンのインフルエンザの流行状況について

2010年感染症発生動向調査事業報告（ウイルス）

北川和寛 塚田敬子 五十嵐郁美 門馬直太 柏原尚子¹⁾ 平澤恭子 佐藤弘子
微生物課, ¹⁾ 総合衛生学院

はじめに

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき、県内の感染症発生の治療、予防に役立つ情報の提供を目的として、対象病原体について感染症発生動向調査を行っている。本報では2010年のウイルス検索結果について報告する。

材 料

2010年1月から12月までの間に、県内の基幹定点7機関、インフルエンザ定点8機関、小児科定点5機関、眼科定点1機関において採取された668症例由来の咽頭拭い液、糞便、髄液、眼瞼拭い液等、計776件を検体とした。なお、インフルエンザウイルスについては2009年10月から12月も対象とした。また、ノロウイルスは2009年11月と12月も対象とした。

方 法

RD-18S, HEp-2, Vero, LLCMK2, MDCK, B95aの6種類の細胞を用いてウイルス分離を実施した。分離ウイルスの同定には、抗血清を用いた中和試験を基本とし、補助的にダイレクトシーケンス法を行った。また、インフルエンザウイルスをはじめとしたオルソミクソウイルスについては赤血球凝集抑制試

験と赤血球吸着試験、ヘルペスウイルスはPCR法及びダイレクトシーケンス法を行った。検体が糞便の場合には、ラテックス凝集反応によるアデノウイルス、ロタウイルス及びRT-PCR法によるノロウイルス、サポウイルス、アイチウイルス、アストロウイルスの検出も併せて行った。

結果及び考察

1 地区別ごとの検体症例数

各地区からの月別の検体症例数を表1に示す。また、居住地域別症例数を表2に示す。

郡山地区からの検体が多かった。いわき地区以外は検体数が減少し、特に相双地区では昨年の約1/6に減少した。

2 検体の種類別検出状況

ウイルスの検体種類別検出状況を表3に示した。668症例776件のうち、279症例279件の検体から285株（表3）のウイルスが検出され、検出率は36.0%であった。

検出された検体の種類ごとの内訳は、咽頭拭い液165件、糞便105件、髄液6件、その他3件であった。種類ごとの検出率では糞便と髄液が昨年¹⁾より高かった。咽頭拭い液はインフルエンザウイルス分離の減少により昨年の6割の検出率となった。検体全体でも昨

表1 月別地区別検体症例数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
県北	5	3	2	7	6	6	17	10	8	2	2	3	71
県中											3	3	6
県南	6	7		2	1	1	2		3	2	1	1	26
会津	15	19	2	2			3	4	4		2	3	54
南会津													
相双	17	5	10	6	4	4	8	3	4	7	6	5	79
郡山市	50	27	20	23	29	24	27	19	16	10	35	61	341
いわき市	14	6	7	9	9	9	8	5	5	4	9	6	91
計	107	67	41	49	49	44	65	41	40	25	58	82	668

表2 移住地域別症例数

地域名	症例数	地域名	症例数
福島市	50	会津若松市	45
本宮市	18	喜多方市	1
二本松市	7	耶麻郡	7
伊達市	7	河沼郡	2
伊達郡	1	大沼郡	3
安達郡	6	南会津郡	1
須賀川市	18	相馬市	49
田村市	18	南相馬市	16
田村郡	17	相馬郡	12
石川郡	11	双葉郡	2
岩瀬郡	5	郡山市	252
白河市	11	いわき市	91
西白河郡	8	県外	8
東白川郡	2		
計		668	

表3 検体種類別検出検体数

	咽頭	糞便	髄液	眼瞼	その他	合計
受付検体数	461	232	66	7	10	776
検出検体数	165	105	6	0	3	279
検出率(%)	35.8	45.3	9.1	0.0	30.0	36.0

年の7割の検出率となった。

3 月別検出状況

月別検体症例数、検出率を図1に示した。ウイルス検出症例数は1月が76症例と最も多く、うちインフルエンザウイルスA(H1pdm)型が49症例と多くを占めていた。

4 ウイルス別検出状況

月別ウイルス検出状況を表4に示した。また、複数ウイルスが検出された6症例を表5に示す。

1) アデノウイルス

年間を通じて28症例から29株検出された。アデノウイルス2型が本年も昨年同様最も多く、10症例から11株検出された。次いで、1型が7症例から7株、41型が5症例から5株、6型が3症例から3株、5型が2症例から2株検出された。また、型別が不能であった1症例1株は、遺伝子検索によりアデノウイルスと同定された。

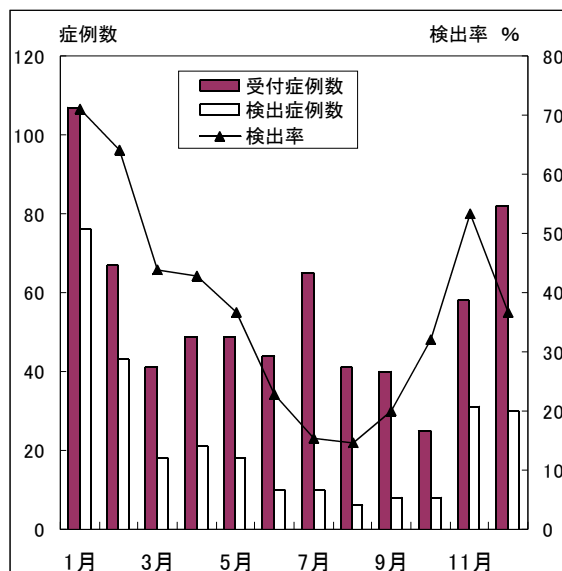


図1 月別検体症例数と検出率

2) エンテロウイルス

エンテロウイルスは24症例から29株検出された。

最も多く検出されたのはエンテロウイルス71型で7症例から7株検出された。5月から9月の採取検体で、手足口病症例から5株検出され、新生児感染症疑いとヘルパンギーナからそれぞれ1株ずつ検出された。

コクサッキーウイルスB群4型は4症例から7株検出された。髄膜炎が2症例、髄膜炎疑いとヘルパンギーナ疑いがそれぞれ1症例であった。

エコーウイルス3型は急性上気道炎と熱性痙攣の2症例から4株検出された。

エコーウイルス25型はウイルス性発疹症と急性胃腸炎の2症例から2株検出された。

エコーウイルス11型は胃腸炎の1症例から1株検出された。

パレコウイルスは腸重積及びヘルパンギーナの2症例から2株検出された。

ポリオウイルスは6症例から6株検出された。3症例3株はワクチン投与後の検出であり、ワクチン由来と考えられる。うち1症例はノロウイルスGIIとの複数検出であった。

ワクチン投与がなかった3症例3株のうち、2症例は国立感染症研究所に送付し、相同性解析の結果、ポリオウイルスワクチン株

表4 月別ウイルス検出症例数

症例数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
Adeno 1	1 (1)	1 (1)		3 (3)	1 (1)		1 (1)						7 (7)
Adeno 2	1 (1)		1 (1)	1 (1)	1 (1)		2 (2)			1 (2)	1 (1)	2☆ (2)	10 (11)
Adeno 5											2 (2)		2 (2)
Adeno 6				1 (1)					1 (1)	1 (1)			3 (3)
Adeno 41					1 (1)		1☆ (1)	1 (1)			1 (1)	1 (1)	5 (5)
Adeno sp.			1 (1)										1 (1)
CoxB 4							1 (1)		1 (2)	1 (3)	1 (1)		4 (7)
Echo 3								2 (4)					2 (4)
Echo 11							1 (1)						1 (1)
Echo 25											2 (2)		2 (2)
Entero 71					3 (3)	1 (1)			3 (3)				7 (7)
Parecho1							1 (1)		1 (1)				2 (2)
Polio					2☆ (2)		1☆ (1)			2 (2)	1☆ (1)		6 (6)
Influenza A(H1pdm)	49 (49)	36 (36)	11 (11)	8 (8)		4 (4)		1 (1)					109 (109)
Influenza A(H3)									1 (1)	2 (2)	6 (6)	1 (1)	10 (10)
Influenza B				4 (4)	3 (3)								7 (7)
HSV 1	1☆ (1)						1 (1)				1 (1)		3 (3)
HHV 6	1☆ (1)												1 (1)
HHV7		1 (1)											1 (1)
Mumps			1 (1)			1 (1)		1 (1)	1 (1)		1 (1)		5 (5)
Rota A	1 (1)		1 (1)	1 (1)	1 (1)							4 (4)	8 (8)
RSV A			1 (1)								1 (1)		2 (2)
RSV B									1 (1)				1 (1)
Noro G II	22 (22)	5 (5)	2 (2)	2 (2)	4☆ (4)	3 (3)					13☆ (13)	21☆ (21)	72 (72)
Sapo				1 (1)	1 (1)	1 (1)						1☆ (1)	4 (4)
Astro					1 (1)								1 (1)
Parvo B19							1 (1)	1 (1)					2 (2)
Orientia tsutsugamushi											1 (1)		1 (1)
症例数 (株数)	76 (76)	43 (43)	18 (18)	21 (21)	18 (18)	10 (10)	10 (10)	6 (8)	8 (9)	8 (11)	31 (31)	30 (30)	279 (285)
未同定症例数												47	47
受付検体症例数	107	67	41	49	49	44	65	41	40	25	58	82	668
検出率	71.0	64.2	43.9	42.9	36.7	22.7	15.4	14.6	20.0	32.0	53.4	36.6	41.8

☆同一症例複数ウイルス分離を含む

()分離株数

2011年1月31日現在

表5 複数ウイルスが検出された症例

No.	分離ウイルス	採取月日	診断名	年齢	性別	住所	検査材料	発熱(°C)
1	HSV 1 HHV 6	2010.1.19	単純ヘルペス感染症	1歳	男	郡山市	咽頭ぬぐい液	37.6
2	Noro G II Polio 2	2010.5.17	感染性胃腸炎	10ヶ月	男	須賀川市	糞便	36.6
3	Polio 2 Adeno 41	2010.7.16	急性腸炎	7ヶ月	男	郡山市	糞便	37.4
4	Noro G II Polio 1 Polio 2	2010.11.24	急性胃腸炎	11ヶ月	女	郡山市	糞便	37.2
5	Noro G II Adeno 2	2010.12.15	アデノウイルス感染症	1歳	女	郡山市	糞便	40.0
6	Sapo G II Adeno 2	2010.12.8	急性胃腸炎 急性気管支炎	0歳	女	郡山市	糞便	38.5

と同定された。1 症例はワクチン投与者との接触によると考えられる。また、ワクチン投与がなかった 3 症例のうち 2 症例は、それぞれノロウイルス G II とアデノウイルス 41 型の複数検出であった。いずれもポリオ様症状はみられなかった。

3) インフルエンザウイルス (図 2)

2009/2010 シーズン初めは 2008/2009 シーズンに発生したインフルエンザウイルス A(H1pdm)型がシーズンを跨いで流行した¹⁾。11 月の 98 症例からの検出をピークに 12 月には 52 症例と減少し、その後、4 月まで減少を続け、6 月 4 症例、8 月 1 症例から検出された。B 型は 4 月に 4 症例、5 月に 3 症例から検出された。9 月以降は A (H3)型のみを検出であった。

4) ヘルペスウイルス

単純ヘルペスウイルス 1 型が 3 症例から 3 株検出された。診断名は単純ヘルペス症、口内炎、口内炎疑いであった。

ヒトヘルペスウイルス 6 型は単純ヘルペス症の 1 歳男児の 1 症例から 1 株検出された。この症例からは、単純ヘルペスウイルス 1 型も検出された。

5) ムンプスウイルス

ムンプスウイルスは 5 症例から 5 株検出された。そのうち 4 症例は髄膜炎症例の髄液から検出された。ムンプスウイルスの検出は 2006 年²⁾以来であった。

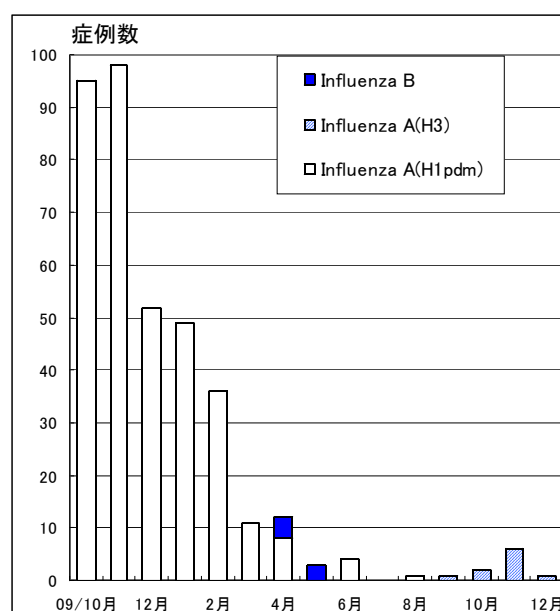


図2 月別インフルエンザウイルス検出症例数

4) ノロウイルス (図 3)

2009/2010 シーズンは 11 月に 1 症例、12 月に 5 症例から検出された¹⁾、2010 年は 1 月をピークに 6 月まで 38 症例から 38 株検出された。38 症例すべてが遺伝子型 G II であった。2010/2011 シーズンは 11 月と 12 月に 34 症例から 34 株検出されており、すべてが遺伝子型 G II であった。

7) ロタウイルス

1 ~ 5 月にかけて 4 症例、12 月に 4 症例から検出された。症例はすべて幼児であった。

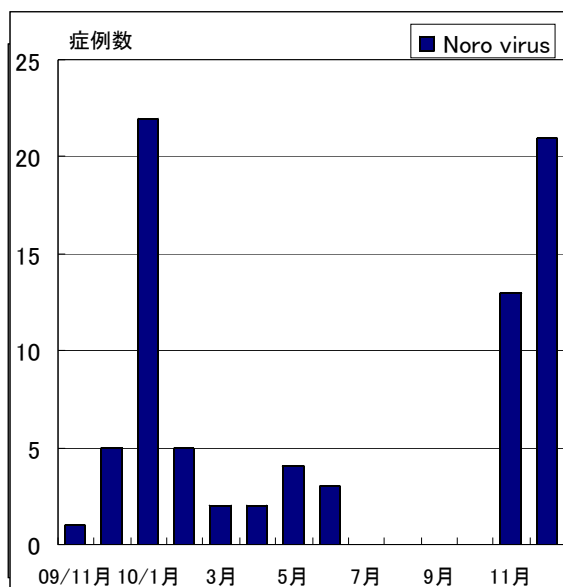


図3 月別ノロウイルス検出症例数

8) その他のウイルス

RSウイルスA型は下気道炎の2症例から2株検出された。RSウイルスB型は熱性けいれんの1症例から1株検出された。

パルボウイルスB19は麻疹疑いと汎血球減少症の2症例から2株検出された。

胃腸炎原因ウイルスであるサポウイルスは4症例から4株、アストロウイルスは1症例から1株検出された。サポウイルスはG Iが3症例から3株検出され、G IIは1症例から1株検出された。

オリエンティアツツガムシは1症例から1株検出された。診断名はつつが虫病で、関節液から検出された。

5 診断名別検出状況

診断名別検出状況を表6に示した。

本年搬入された検体ではインフルエンザと診断された症例が最も多く、178症例の検体が搬入され、126症例からウイルスが検出された。検出率は70.8%と高かった。検出されたウイルスはすべてインフルエンザウイルスであった。

胃腸炎は151症例の検体が搬入され、96症例からウイルスが検出された。検出ウイルスはノロウイルス、ロタウイルス、アデノウイルス、エコーウイルスなど様々であるが、

ノロウイルスが71症例と検出症例中73.9%を占め、次いでロタウイルスが8.3%であった。

上気道炎は66症例の検体が搬入され、11症例からウイルスが検出された。そのうち9症例はアデノウイルスが検出され、2症例はエコーウイルスが検出された。

下気道炎は32症例の検体が搬入され、4症例からウイルスが検出された。検出ウイルスはアデノウイルス、RSウイルス、サポウイルスであった。

手足口病は33症例の検体が搬入され、5症例からウイルスが検出され、すべてエンテロウイルス71型であった。エンテロウイルス71型とコクサッキーウイルスA群16型は手足口病の原因ウイルスとして知られている³⁾。本県においては、コクサッキーウイルスは昨年以降検出されておらず、全国的にも2010年はエンテロウイルス71型の分離が多かった⁴⁾。

ヘルパンギーナは46症例の検体が搬入され、5症例からウイルスが検出された。検出ウイルスはアデノウイルス6型、ポリオウイルス、コクサッキーウイルスB群4型、エンテロウイルス71型、パレコウイルスであった。

謝辞

検体採取等本事業にご協力いただいた病原体定点医療機関の諸先生方に深謝いたします。

引用文献

- 1)五十嵐郁美, 北川和寛, 門馬直太, 他. 2009年感染症発生動向調査事業報告(ウイルス). 福島県衛生研究所年報 2009
- 2)金成篤子, 菱沼郁美, 広瀬昌子, 他. 2006年感染症発生動向調査事業報告(ウイルス). 福島県衛生研究所年報 2006: 63-70.
- 3)国立感染症病原体情報センター
http://idsc.nih.gov.jp/idwr/kansen/k01_g2/k01_27/k01_27.html 2011/2/3
- 4)国立感染症病原体情報センター
<http://idsc.nih.gov.jp/iasr/prompt/s2graph-kj.html> 2011/2/3

表6 診断名別ウイルス検出症例数

症例数	上気 道炎	下気 道炎	インフル エンザ	胃腸 炎	髄膜 炎	手足 口病	口内 炎	発疹 症	ヘルパン ギーナ	熱性 痙攣	結膜 炎等	その 他	計
Adeno 1	3			2				1				1	7
Adeno 2	3	2☆		1	1					3		1☆	11
Adeno 5	1			1									2
Adeno 6	2								1				3
Adeno 41				5☆									5
Adeno sp.				1									1
CoxB 4					6				1				7
Echo 3	2									2			4
Echo 11				1									1
Echo 25				1				1					2
Entero 71						5			1			1	7
Parecho1				1					1				2
Polio				3☆					1	1		1	6
Influenza A(H1pdm)			109										109
Influenza A(H3)			10										10
Influenza B			7										7
HSV 1							2	1☆					3
HHV 6								1☆					1
HHV7							1						1
Mumpsvirus					4							1	5
Rota A				8									8
RSvirus A		2											2
RSvirus B										1			1
Noro G II				71☆								1☆	72
Sapo		1☆		3									4
Astro				1									1
Parvovirus B19												2	2
Orientia tsutsugamushi												1	1
陽性症例数	11	4	126	96	11	5	3	3	5	7	0	8	279
受付検体症例数	66	32	178	151	39	33	4	15	46	34	8	62	668
検出率 (%)	16.7	12.5	70.8	63.6	28.2	15.2	75.0	20.0	10.9	20.6	0.0	12.9	41.8

☆同一症例複数ウイルス分離を含む

2011年1月31日現在

2010年感染症発生動向調査事業報告（細菌）

横山博子 千葉一樹 菅野奈美 小黒祐子 佐藤弘子
微生物課

はじめに

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき、県内の感染症発生の治療、予防に役立つ情報の提供を目的として、対象病原体について感染症発生動向調査を行っている。本報では2010年の細菌検査結果について報告する。

材 料

2010年1月から12月までの間に、県内の8定点医療機関において採取された検体267件を対象とした。検体の内訳を表1に示す。咽頭・扁桃拭い液38件、後鼻腔拭い液196件、糞便・直腸拭い液20件、その他13件であった。また、医療機関において分離され、当所に搬入された菌株206件も対象とした。

方 法

1 細菌分離

A群溶血性レンサ球菌（以下、“A群溶レン菌”とする）、細菌性髄膜炎起因菌、百日咳菌、感染性胃腸炎起因菌等を、厚生省監修「微生物検査必携・第3版」に従い検索した。

2 薬剤耐性遺伝子検出、薬剤感受性試験

肺炎球菌、インフルエンザ菌の薬剤耐性遺伝子の検出および薬剤感受性試験は既報¹⁾の方法により実施、判定した。なお、薬剤耐性遺伝子の検出は当所で実施した。また、薬剤感受性試験は公立相馬総合病院検査科で実施した結果について記述した。

結 果

1 患者居住地別症例数

患者居住地別の検体数では、全検体267件のうち、相双地区で184件、68.9%を占め、地域に偏りが認められた（表2）。

表2 居住地域別症

地 域 名	検体数	地 域 名	検体数
福島市	1	耶麻郡	1
安達郡	5	大沼郡	1
須賀川市	1	相馬市	142
田村市	1	南相馬市	25
田村郡	2	相馬郡	13
石川郡	2	双葉郡	4
白河市	1	郡山市	40
西白河郡	1	いわき市	11
南会津郡	1	県外	15
		計	267

表1 月別・検査材料別検体数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
咽頭・扁桃拭い液	1	3	3	1	6					8	9	7	38
スワブ（再掲）	(1)	(3)	(3)	(1)	(6)					(8)	(9)	(7)	(38)
平板（再掲）													
菌株（再掲）													
後鼻腔拭い液	12	29	21	14	9	12	9	11	7	22	19	31	196
スワブ（再掲）													
菌株（再掲）	(12)	(29)	(21)	(14)	(9)	(12)	(9)	(11)	(7)	(22)	(19)	(31)	(196)
糞便・直腸拭い液	3			1	4	1		1	1		2	7	20
キャリブ [®] レア（再掲）	(3)			(1)	(4)			(1)	(1)		(2)	(7)	(19)
菌株（再掲）						(1)							(1)
その他	2	2		1		1				3		4	13
キャリブ [®] レア等（再掲）	(1)									(2)		(1)	(4)
菌株（再掲）	(1)	(2)		(1)		(1)				(1)		(3)	(9)
		血液1	血液1							血液3		血液1	
		髄液1	膿汁1	鼻汁1		髄液1						鼻汁1	
												喀痰1	
												気管液1	
計	18	34	24	17	19	14	9	12	8	30	33	49	267

表3 月別・検査材料別分離率

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
咽頭・後鼻腔拭い液 スwab	1	3	3	1	6	0	0	0	0	8	9	7	38
分離数	0	3	1	0	6	0	0	0	0	7	7	4	28
分離率 (%)	(0.0)	(100.0)	(33.3)	(0.0)	(100.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(87.5)	(77.8)	(57.1)	(73.7)
糞便・直腸拭い液 キャプリア	3	0	0	1	4	0	0	1	1	0	2	7	19
分離数	1	0	0	1	2	0	0	2	0	0	2	6	14
分離率 (%)	(33.3)	(0.0)	(0.0)	(100.0)	(50.0)	(0.0)	(0.0)	(200.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)	(85.7)	(73.7)
その他 血液等	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	4
分離数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	4
分離率 (%)	(100.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(150.0)	(0.0)	(100.0)

2 検査材料別分離率

輸送培地で搬入した検体について、細菌分離率を表3に示す。咽頭拭い液は38件中28件、73.7%、糞便・直腸拭い液は19件中14件、73.7%であった。

3 細菌分離状況

表4に月別の細菌分離状況を示す。

1) 溶血性レンサ球菌

A群溶レン菌は31株が分離、あるいは菌株で搬入され、全て上気道拭い液（咽頭24株、後鼻腔7株）由来株であった。患者の年齢は5～10歳が74.2%（23株）を占めた。A群溶レン菌の血清型は5種類に型別され、最も多く分離されたのはT-12型11株（35.5%）、次いでT-25型5株（16.1%）、T-28型5株（16.1%）、T-1型6株（19.4%）、T-B3264型3株（9.7%）であった。なお、T型別不明が1株あった。他の溶血性レンサ球菌（以下、“溶レン菌”とする）はG群溶レン菌3株、B群溶レン菌1株が分離された。これらの株はすべて咽頭拭い液由来株であった。

2) 糞便・直腸拭い液からの腸管系病原菌

腸管系病原菌は15株が分離、あるいは菌株で搬入された（表4）。内訳は下痢原性大腸菌9株、*Klebsiella oxytoca* 2株、*Salmonella* Enteritidis 1株、*Salmonella* Senftenberg 1株、*Citrobacter freundii* 1株、*Pseudomonas aeruginosa* 1株であった。大腸菌の血清型は5種類で、O18、O25、O74、O111が各2株、O169が1株であった。いずれの大腸菌にも毒素遺伝子は認められなかった。

3) 肺炎球菌、インフルエンザ菌

肺炎球菌は108株が分離、あるいは菌株で搬入された。慢性副鼻腔炎患者の鼻汁由来1

件の他は呼吸器感染症患者の上気道（後鼻腔107株）由来であった。

インフルエンザ菌は84株が分離、あるいは菌株で搬入された。細菌性髄膜炎患者の髄液由来が1株で、他は呼吸器感染症患者の上気道（後鼻腔83株）由来であった。

インフルエンザ菌は84株が分離、あるいは菌株で搬入された。細菌性髄膜炎患者の髄液由来が1株で、他は呼吸器感染症患者の上気道（後鼻腔83株）由来であった。

インフルエンザ菌の血清型は、型不明が最も多く75株（89.3%）、次いでb型6株（7.1%）、d型2株（2.4%）、c型1株（1.2%）であった。b型別された6株の中で血清型別法で型別できなかった1株はPCR法によって型別された。髄液由来株はb型であった。

4) その他の検出菌

髄液から、前述のインフルエンザ菌以外に*Listeria monocytogenes* 1株が分離された。血清型は4b型であった。

血液から、*Atopobium parvulum* が2株、*Staphylococcus epidermidis mecA* (+)、*Arcanobacterium haemolyticum*、*Salmonella* Enteritidis、*Pseudoramibacter alactolyticus*、*Prevotella intermedia*、*Clostridium perfringenes* が各1株分離された。皮膚膿汁からは*Arcanobacterium haemolyticum*、喀痰からは*Corynebacterium pseudodiphthericum* が各1株分離された。この中で、*Atopobium parvulum* と*Pseudoramibacter alactolyticus* と*Prevotella intermedia* の3菌種は同一患者の血液から分離され、シーケンスによって菌種を同定した。

表4 月別細菌分離状況 (2010年1月~12月)

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
A群溶レン菌	T-1		3									1	2	6
A群溶レン菌	T-12		2	1		1					1	4	2	11
A群溶レン菌	T-25		1			2					1		1	5
A群溶レン菌	T-28					2					3			5
A群溶レン菌	T-B3264		1									2		3
A群溶レン菌	T型不明												1	1
B群溶レン菌						1								1
G群溶レン菌											2	1		3
<hr/>														
<i>E.coli</i>	O18												2	2
<i>E.coli</i>	O25								1				1	2
<i>E.coli</i>	O74					1						1		2
<i>E.coli</i>	O111											1	1	2
<i>E.coli</i>	O169				1									1
<i>S. Enteritidis</i>		1										1		2
<i>S. Senftenberg</i>							1							1
<i>K. oxytoca</i>									1				1	2
<i>C. freundii</i>						1								1
<i>P. aeruginosa</i>													1	1
<i>S. epidermidis</i>	<i>mecA+</i>	1												1
<i>C. pseudodiphtheriticum</i>													1	1
<i>L. monocytogenes</i>							1							1
<i>A. parvulum</i>												2		2
<i>P. alactolyticus</i>												1		1
<i>P. intermedia</i>												1		1
<i>C. perfringens</i>													1	1
<hr/>														
Streptococcus 属														
<i>S. pneumoniae</i>	PSSP	2			1			1	1			2	1	8
	PISP	2	4	2	4	1	3	2	4		2	2	3	29
	PRSP	3	9	9	4	5	4	4	4	3	13	6	10	70
<i>H. influenzae</i>	BLNAS	1	4					1		2		3	4	15
	軽度BLNAR		1								1		1	3
	BLNAR	5	5	9	4	2	5	5	2	2	6	5	11	61
	BLPAR		1	1	2	1								5
計		15	31	22	16	17	14	9	13	7	29	33	44	250

4 肺炎球菌、インフルエンザ菌の薬剤耐性遺伝子検出結果

1) 肺炎球菌の薬剤耐性遺伝子検出結果

薬剤耐性遺伝子の検出結果と Clinical and Laboratory Standards Institute (CLSI) による薬剤感受性判定結果を表5に示す。

遺伝子検査の結果、ペニシリン結合蛋白をコードする *pbp* の3種類の遺伝子の内、何れかに変異が認められた株は108株中100株(92.6%)であった。その内訳は *pbp1a* 変異2株、*pbp2x* 変異7株、*pbp1a+2x* 変異9株、*pbp2x+2b* 変異11株、*pbp1a+2x+2b* 変異70株である。これらを遺伝子変異の有無によって分類すると、ペニシリン感受性肺炎球菌(以下“PSSP”とする)8株(7.4%)、ペニシリン中等度耐性肺炎球菌(以下“PISP”とする)29株(26.9%)、ペニシリン耐性肺炎球菌(以下

“PRSP”とする)70株(64.8%)である。

一方、CLSI による薬剤感受性試験では、PSSP20株(18.5%)、PISP30株(27.8%)、PRSP57株(52.8%)に分類された。このPSSP20株の内12株(60.0%)に *pbp* 変異が検出され、PISP30株の内12株(40.0%)に *pbp1a+2x+2b* 変異が検出された。マクロライド耐性遺伝子は105株(97.2%)に認めた。その内訳は耐性遺伝子 *mefA* 検出が57株、*ermB* 検出70株であり、このうち22株は *mefA*, *ermB* 共に検出した。

2) インフルエンザ菌の薬剤耐性遺伝子検出

薬剤耐性遺伝子の検出結果と CLSI による薬剤感受性判定結果を表6に示す。

遺伝子検査の結果、ペニシリン結合蛋白をコードする遺伝子 *ftsI* の変異部位 *pbp3-1*, *pbp3-2* の何れかに変異を認めた株は84株中

79 株 (94.0 %) であった。TEM 遺伝子別では、TEM 遺伝子陽性 (β-ラクタマーゼ陽性) は 5 株 (6.0 %) であった。これらを遺伝子変異によって分類すると、β-ラクタマーゼ陰性アンピシリン感受性インフルエンザ菌 (以下“BLNAS”とする) 5 株 (6.0 %), β-ラクタマーゼ陰性アンピシリン軽度耐性インフルエンザ菌 (以下“軽度 BLNAR”とする) 13 株 (15.5 %), β-ラクタマーゼ陰性アンピシリン耐性インフルエンザ菌 (以下“BLNAR”とする) 66 株 (78.5 %) であった。β-ラクタマーゼ陽性アンピシリン耐性インフルエンザ菌 (以下“BLPAR”とする) 5 株は、全て β-ラクタマーゼ陽性アモキシシリン/クラブリ酸耐性-II インフルエンザ菌 (以下“BLPACR-II”とする) であった。なお、髄膜炎患者の髄液由来 1 株は *pbp3-1+3-2* 変異株であり、BLNAR であった。

一方、CLSI による薬剤感受性試験では、BLNAS 33 株 (39.2 %), 軽度 BLNAR 12 株 (14.3 %), BLNAR34 株 (40.5 %), BLPAR4 株 (4.8 %) に分類された。この BLNAS 33 株の内 28 株 (84.8 %) に *pbp3-1*, あるいは *pbp3-2* 遺伝子変異を検出した。

考 察

2010 年の A 群溶レン菌の分離数は 31 株と、例年になく少なかった。福島県感染症情報センターに報告されている A 群溶血性レンサ球

菌咽頭炎患者は通年発生が見られるが、検体搬入は 1～5 月と 10～11 月に集中していた。付表に本調査による A 群溶レン菌 T 型別の年次推移を示した。2010 年の例数は少ないが、2009 年主流の T-1 型は減少し、ここ数年来の流行血清型の T-12 型、25 型が主流を占めた。

当所は 2002 年から肺炎球菌とインフルエンザ菌について薬剤耐性遺伝子検査を行っている。肺炎球菌のペニシリン耐性遺伝子の保有率はいずれの年も高率であり 2009 年³⁾に 90.7 %となったが、2010 年にはさらに増加し 92.6 %となった。マクロライド耐性遺伝子の保有率は検査開始時は 80 %弱であったが、2009 年³⁾は 97.2 %と増加し、2010 年においても 97.2 %となった。その中でも *mefA* と *ermB* の両方を有しているものは 21.0 %で 2009 年³⁾の 22.4%と大差はなかったが、今後経過を注視していきたい。

インフルエンザ菌のペニシリン耐性遺伝子保有率は 2004 年¹⁾, 2005 年⁵⁾は約 50 %であったが、2009 年³⁾は 85 %になり、2010 年は 94.0 %と、急速に耐性化が進んでいることが推測された。耐性遺伝子による薬剤感受性と CLSI による薬剤感受性と比較すると、2009 年³⁾には CLSI 分類の BLNAS は 35 %であるのに対して遺伝子上の分類は 15 %であったが、2010 年は 39.2 %に対し 6.0 %と遺伝子上では耐性化が非常に進んでいた。

表 5 肺炎球菌の薬剤耐性遺伝子検出結果

CLSIによる 薬剤耐性	<i>pbp</i> 変異									計
	変異なし	<i>pbp1a</i>	<i>pbp2x</i>	<i>pbp2b</i>	<i>pbp1a+2x</i>	<i>pbp1a+2b</i>	<i>pbp2x+2b</i>	<i>pbp1a+2x+2b</i>	未実施	
PSSP	8		6		5			1		20
PISP		2	1		4		11	12		30
PRSP								56	1	57
未実施								1		1
計	8	2	7	0	9	0	11	70	1	108

表 6 インフルエンザ菌の薬剤耐性遺伝子結果

CLSIによる 薬剤耐性	TEM	<i>pbp</i> 変異				計
		変異なし	<i>pbp3-1</i>	<i>pbp3-2</i>	<i>pbp3-1+3-2</i>	
BLNAS		5	13	11	4	33
軽度BLNAR	1			9	3	12
BLNAR				25	9	34
BLPAR	4			3	1	4
未実施					1	1
計		5	13	48	18	84

付表 A群溶レン菌T型別の年次推移（1989～2010）

	T型	1	2	3	4	6	8	9	11	12	13	14/49	18	22	23	25	28	B3264	型不明	計
1989		60		1	95	37			2	102	1		3	3			7	5	15	331
	%	18.1		0.3	28.7	11.2			0.6	30.8	0.3		0.9	0.9			2.1	1.5	4.5	100
1990		39		5	101	55		1	14	75	3		2	10			29	8	22	364
	%	10.7		1.4	27.7	15.1		0.3	3.8	20.6	0.8		0.5	2.7			8.0	2.2	6.0	100
1991		69	3	2	157	16	2	2	24	212	3		2	27			19	21	25	584
	%	11.8	0.5	0.3	26.9	2.7	0.3	0.3	4.1	36.3	0.5		0.3	4.6			3.3	3.6	4.3	100
1992		175		31	129		1	1	18	89	2		1	12			5	65	143	672
	%	26.0		4.6	19.2		0.1	0.1	2.7	13.2	0.3		0.1	1.8			0.7	9.7	21.3	100
1993		85		35	190	1			34	123	4		24	17			31	61	81	686
	%	12.4		5.1	27.7	0.1			5.0	17.9	0.6		3.5	2.5			4.5	8.9	11.8	100
1994		110		15	172	2			21	265			95	9		1	40	18	36	784
	%	14.0		1.9	21.9	0.3			2.7	33.8			12.1	1.1		0.1	5.1	2.3	4.6	100
1995			1	2	116	2			9	122			9	4			36	17	14	332
	%		0.3	0.6	34.9	0.6			2.7	36.7			2.7	1.2			10.8	5.1	4.2	100
1996		125			103	111			7	41			4				18	7	54	470
	%	26.6			21.9	23.6			1.5	8.7			0.9				3.8	1.5	11.5	100
1997		82	4		66	39			7	61				4			25	11	17	316
	%	25.9	1.3		20.9	12.3			2.2	19.3				1.3			7.9	3.5	5.4	100
1998		58	17		57	37			6	100				1		42	43	10	18	389
	%	14.9	4.4		14.7	9.5			1.5	25.7				0.3		10.8	11.1	2.6	4.6	100
1999		55	5		68	3		1	3	59	4			1		66	42	6	44	357
	%	15.4	1.4		19.0	0.8		0.3	0.8	16.5	1.1			0.3		18.5	11.8	1.7	12.3	100
2000		51	4		22	34			1	74		1		6		16	8	14	10	241
	%	21.2	1.7		9.1	14.1			0.4	30.7		0.4		2.5		6.6	3.3	5.8	4.1	100
2001		84	5	9	46	7			1	97	1					6	10	8	5	279
	%	30.1	1.8	3.2	16.5	2.5			0.4	34.8	0.4					2.2	3.6	2.9	1.8	100
2002		23	17	40	97	3			4	58						11	18	5	3	279
	%	8.2	6.1	14.3	34.8	1.1			1.4	20.8						3.9	6.5	1.8	1.1	100
2003		24	1	17	107				1	99	1				1	11	12	27	6	307
	%	7.8	0.3	5.5	34.9				0.3	32.2	0.3				0.3	3.6	3.9	8.8	2.0	100
2004		80	1	2	42	18			4	73	1					8	4	11	4	248
	%	32.3	0.4	0.8	16.9	7.3			1.6	29.4	0.4					3.2	1.6	4.4	1.6	100
2005		21		15	33	19			4	20						4	3	6	2	127
	%	16.5		11.8	26.0	15.0			3.1	15.7						3.1	2.4	4.7	1.6	100
2006		138		3	52	44			9	41	3						6	9	2	307
	%	45.0		1.0	16.9	14.3			2.9	13.4	1.0						2.0	2.9	0.7	100
2007		16		2	32	5			8	71						3		15	4	156
	%	10.3		1.3	20.5	3.2			5.1	45.5						1.9		4.9	1.3	100
2008		9	1		11	4			1	138	1					24	2	8	8	207
	%	4.3	0.5		5.3	1.9			0.5	66.7	0.5					11.6	1.0	3.9	3.9	100
2009		39		7	7				1	23	1			1		25	1	8	2	115
	%	33.9		6.1	6.1				0.9	20.0	0.9			0.9		21.7	0.9	7.0	1.7	100
2010		6								11						5	5	3	1	31
	%	19.4								35.5						16.1	16.1	9.7	3.2	100
計		1,349	59	186	1,703	437	3	5	179	1,954	25	1	140	95	1	222	364	343	516	7,582
	%	17.8	0.8	2.5	22.5	5.8	0.0	0.1	2.4	25.8	0.3	0.0	1.8	1.3	0.0	2.9	4.8	4.5	6.8	100

まとめ

2010年に267検体から46株の細菌を分離した(菌株による搬入を除く)。

分離した主な細菌はA群溶レン菌24株,下痢原性大腸菌9株,血液からの嫌気性菌3株などであった。

また薬剤耐性遺伝子検査を行った結果,肺炎球菌107株のうち100株から,インフルエンザ菌84株のうち79株から薬剤耐性遺伝子が検出された。

謝 辞

検体採取等本事業にご協力いただいた病原体定点の医療機関の諸先生方に深謝いたします。

引用文献

- 1) 平沢恭子, 須釜久美子, 熊谷奈々子, 他. 2004年感染症発生動向調査事業報告(細菌). 福島県衛生研究所年報 2004; 22: 59-66.
- 2) 小黒祐子, 菅野奈美, 渡邊奈々子, 他. 2008年感染症発生動向調査事業報告(細菌). 福島県衛生研究所年報 2008; 26: 76-82
- 3) 小黒祐子, 菅野奈美, 渡邊奈々子, 他. 2009年感染症発生動向調査事業報告(細菌). 福島県衛生研究所年報 2009; 27: 印刷中
- 4) 小黒祐子, 菅野奈美, 渡邊奈々子, 他. 2007年感染症発生動向調査事業報告(細菌). 福島県衛生研究所年報 2007; 25: 92-99
- 5) 平沢恭子, 須釜久美子, 熊谷奈々子, 他. 2005年感染症発生動向調査事業報告(細菌). 福島県衛生研究所年報 2005; 23: 80-87.

2010/11 シーズンのインフルエンザの流行状況について

門馬直太 塚田敬子 北川和寛 五十嵐郁美 柳沼幸¹⁾
阿部環¹⁾ 風間秀元¹⁾ 平澤恭子 佐藤弘子
微生物課¹⁾ 総務企画課

要 旨

2010/11 シーズンは、第 48 週に流行開始の指標となる定点当たりの患者数が 1.0 となり、その後も患者報告数が増加している。地域別にみると、他の地域に比べ約 4 週間早く県中地域で患者報告があり、その後県内全域で流行状態となった。

シーズン前半は季節性インフルエンザ A(H3)が検出されていたが、12 月以降は新型インフルエンザウイルス A (H1pdm) の検出数が増加している。インフルエンザにより重症化した患者を対象とする重症化サーベイランス 6 症例からは全て新型インフルエンザウイルス A(H1pdm)が検出された。

キーワード：インフルエンザウイルス 新型インフルエンザ A (H1N1)

はじめに

当所は感染症発生動向調査事業において、インフルエンザの地域流行やその規模の把握を目的として、県内 80 定点医療機関から報告される患者の発生状況を週毎に集計すると共に、病原体定点 10 医療機関から搬入される検体からインフルエンザウイルスを分離し、亜型の同定を行っている。

2009 年 4 月下旬に北中米で新型インフルエンザ A (H1N1) の感染者が報告され¹⁾、その後、世界的大流行（パンデミック）となり、本県においても多くの患者が発生した。2010 年 8 月には概ね流行は沈静化したとして WHO はパンデミックの終了を宣言²⁾したが、その後も散発的に患者発生が報告されている。

本報では、ポストパンデミック期にあたる 2010 年 9 月から 2011 年 1 月までのインフルエンザの患者発生数とウイルスの分離状況について報告する。

材 料

1 ウイルスサーベイランス

2010 年 9 月から 2010 年 12 月までに新型インフルエンザの感染が疑われる患者から病原体定点医療機関において採取された 34 検体を用いた。

2 クラスタサーベイランス

2010 年 9 月から 2010 年 12 月までにインフルエンザの集団感染が疑われた 4 事例 19 検体を用いた。

3 重症サーベイランス

2010 年 9 月から 2011 年 1 月までにインフルエンザの感染が疑われ、県内医療機関に入院した重症化患者から採取された 6 検体を用いた。

方 法

1 患者発生状況

県内 80 定点医療機関においてインフルエンザと診断された患者数を週毎に集計した。

2 ウイルス分離及び同定

搬入された検体について MDCK 細胞（イヌ腎細胞）によるウイルス分離を行った。細胞変性効果（CPE）が確認された検体については、国立感染症研究所から配付された抗血清による赤血球凝集抑制（HI）試験を行い、下記の同定用抗血清を使用して同定した。

- ①A/Brisbane/59/2007 (H1N1)
- ②A/Victoria/210/2009 (H3N2)
- ③B/Brisbane/60/2008 (ビクトリア系統)

④B/Bangladesh/3333/2007 (山形系統)

⑤A/California/7/2009 (H1N1pdm)

また、RT-PCR によるウイルス遺伝子の検出も行った。

結果及び考察

1 患者発生状況

2010/11 シーズンは第 48 週で定点あたりの患者数が 1.0 となり、流行開始の指標となった(図 1)。その後患者数は増加し、2011 年第 3 週には定点あたりの患者数は 29.99 となり、県内全ての地域で流行状態となった。

流行開始となった第 48 週の前後 4 週間について患者報告数を県内各地域別に集計した結果、第 46 週に県中地域で 50 名の患者報告があり、その後も他の地域とは異なる患者発生状況を示した(図 2)。これは県中地方で 11 月中旬に発生した集団感染事例によるものと考えられ、その後の県内におけるインフルエンザの流行に影響を与えた可能性が示唆される。

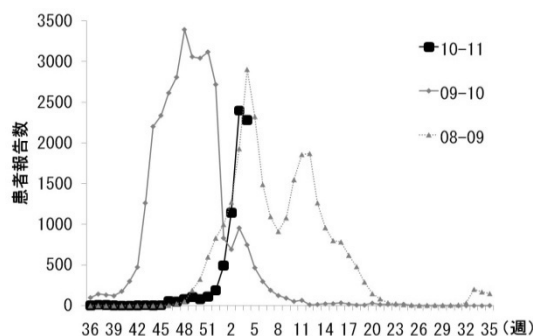


図 1 インフルエンザ患者報告数

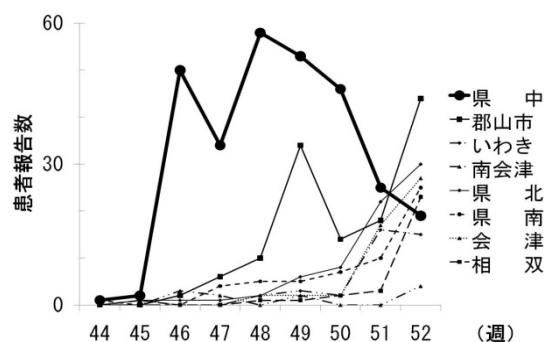


図 2 インフルエンザ患者報告数 (2010 年第 44~52 週)

2 ウイルス検出状況

ウイルス、クラスター、重症の各サーベ

イランスにより搬入された検体について、培養細胞によるウイルスの分離、または RT-PCR による遺伝子の検出を行った結果、58 検体からインフルエンザウイルスが検出された(図 3)。9 月から 11 月は季節性インフルエンザウイルス A(H3)が検出されたが、その後は新型インフルエンザウイルス A(H1pdm)の検出数が増加している。

2010/11 シーズンは A(H1pdm)と A(H3)の異なる亜型が同時に流行しており、様々な年齢層でインフルエンザの重症化が危惧される。今シーズンはこれまでに重症サーベイランスとして死亡例 1 件を含む 6 件の検体が当所に搬入され、全ての検体から新型インフルエンザウイルス A(H1pdm)が検出された。新型インフルエンザによる重症化事例は今後も警戒が必要であり、高齢者における季節性インフルエンザも含めた総合的なインフルエンザ対策が必要と思われる。

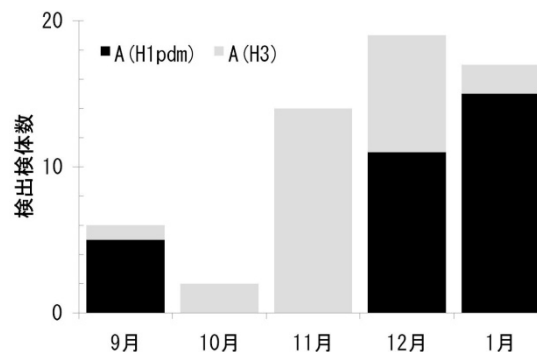


図 3 インフルエンザウイルス分離状況

謝 辞

本調査を行うにあたり、検体採取にご協力いただきました県民の皆様並びに各医療機関の諸先生、国立感染症研究所、保健所職員の方々に深く感謝いたします。

引用文献

- 1) Centers for Disease Control and Prevention. Outbreak of swine-origin influenza A (H1N1) virus infection-Mexico, March-April 2009. MMWR Morb. Mortal. Wkly. Rep., 58(17), 467-470 (2009)
- 2) WHO ポストパンデミック宣言, WHO http://www.who.int/mediacentre/news/statements/2010/h1n1_vpc_20100810/en/index.html